STEP 9 電話機やFAXを使いましょう ISDN

本製品のTELポートに接続した電話機やFAXは、そのままでも使えますが、本製品に搭載されている各種機能を使うためには、設定を行う必要があります。

アナログ機能の設定ページを開く

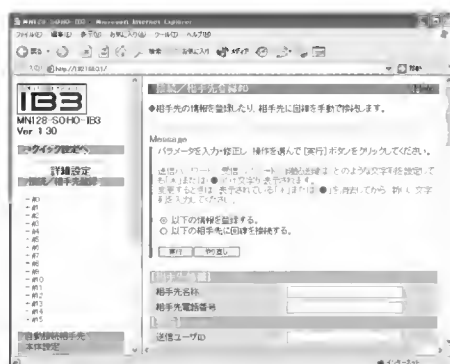
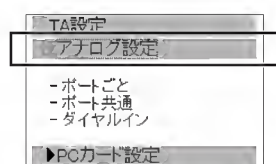
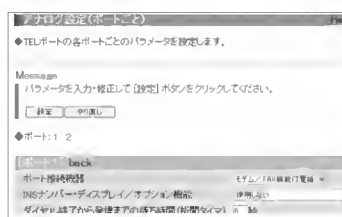
本製品に接続した電話機やFAXは、すぐに使えます。
さらに、設定を行うと、本製品に搭載されている便利な機能を使いこなすことができます。

※本製品で電話機やFAXを使用する機能のことを「アナログ機能」と呼びます。
※TELポートに接続した電話機、FAX、モデム/FAX機能付き電話などの機器のことをまとめて「アナログ機器」と呼びます。

1 本製品の設定ページを開きます。

☞「設定ページを開きます」〈P.43〉

2 メニューの［詳細設定］をクリックします。

画面左側に詳細設定のメニューが開きます。

3 メニューから［アナログ設定］をクリックします。
［アナログ設定］の文字の下に、項目名が表示されます。

4 項目名をクリックすると、各設定画面が表示されます。
（例）［ポートごと］をクリックした場合

One Point!

◆アナログ機能の設定は、電話機やRS-232Cシリアルポートのパソコンからも行えます
アナログ機能の設定は設定ページから行えますが、それ以外にも設定する方法があります。

- 設定コード
  TELポートに接続した電話機から、本製品で決められた「設定コード」のボタンを押します。ただし、設定できる機能は一部のみです。
- ATコマンド
  RS-232Cシリアルポートに接続したパソコンから、ハイパーターミナルなどのターミナルソフトを使って設定します。

設定コード、ATコマンドについては、リファレンス・ハンドブック（PDFファイル）で解説しています。MN128-SOHOホームページ〈P.162〉からダウンロードして参照してください。

TELポートの機器を指定する

TELポートに接続した機器の種類を指定する方法について解説します。

1 設定ページの［アナログ設定（ポートごと）］画面を開きます。

2 アナログ機器を接続しているポートを確認します。

そのポートの［ポート接続機器］から、該当する項目を選びます。

電話：電話機を接続しているとき

モデム／FAX機能付電話：モデム、またはFAX機能がついた電話機を接続しているとき（出荷時の設定です。）

ファクシミリ：FAXを接続しているとき

サイレントFAX1：無鳴動着信対応のFAXを接続している場合で、相手先がISDN回線を通じてFAXを送信してきたときのみ呼び出し音を無音にしたいとき

サイレントFAX2：無鳴動着信対応のFAXを接続している場合で、常に呼び出し音を無音にしたいとき

2

※ナンバー・ディスプレイに対応した電話機（またはアダプタ）を使用するときは、さらに［ナンバー・ディスプレイ機能］で「使用する」を選んでください。

☞ 「ナンバー・ディスプレイ/キャッチホン・ディスプレイ/ネーム・ディスプレイ対応電話機を使用するときは」〈P.94〉

3 ［設定］ボタンをクリックします。

One Point!

◆停電時の使用について

停電時には、TELポート1だけが乾電池によってバックアップされます。電話機など、停電時にも使いたいアナログ機器は、TELポート1につないでください。

☞ 「停電時に使えるようにする」〈P.32〉

ナンバー・ディスプレイ/キャッチホン・ディスプレイ/ネーム・ディスプレイ対応電話機を使用するときは

本製品に以下のサービスに対応した電話機（またはアダプタ）を接続して利用することができます。

●ナンバー・ディスプレイ
　電話機のディスプレイに、相手の電話番号（発信電話番号）などが表示されます。

●キャッチホン・ディスプレイ
　通話中に別の相手から着信があった場合、電話をかけてきた相手の電話番号（発信電話番号）などが電話機のディスプレイに表示されます。

※ナンバー・ディスプレイ、キャッチホン・ディスプレイで表示できる内容は、次のとおりです。

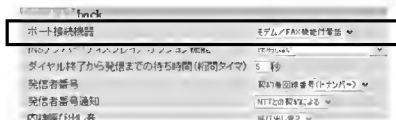
相手の電話番号（発信電話番号）：相手が電話番号を通知して電話をかけてきた場合、相手の通知する電話番号が表示されます。内線電話のときは「0」と表示されます。
発信電話番号非通知理由：ナンバー・ディスプレイを非通知理由ありで契約している場合、相手の電話番号が非通知だったなど、何らかの理由で発信電話番号を取得できないときはその理由が表示されます。

●ネーム・ディスプレイ
　本製品のTELポートに接続した電話機に、かかってきた相手先のネーム・ディスプレイ情報を表示することができます。
　※かけてくる相手も、ネーム・ディスプレイ情報を登録している必要があります。登録していない場合はネーム・ディスプレイ情報は表示されません。

※使用する電話機の機種によっては、表示される内容が異なることがあります。また、内容が正しく表示されないことがあります。

契約 NTT
INSナンバー・ディスプレイ（有料）
+オプションサービス「INSキャッチホン・ディスプレイ」（有料）
+オプションサービス「INSネーム・ディスプレイ」（有料）
※NTTとの契約が必要です。ただし、相手がISDN回線、携帯電話およびPHSから電話をかけてくる場合は、契約しなくても利用できます。サービスの内容について詳しくは、最寄りのNTTまでお問い合わせください。

1 設定ページの［アナログ設定（ポートごと）］画面を開きます。

2 INSナンバー・ディスプレイ／キャッチホン・ディスプレイ／に対応した電話機（またはアダプタ）をつないでいるポートの［ポート接続機器］で、該当する項目を選びます。

3 ［INSナンバー・ディスプレイ／オプション機能］で次の中から選びます。

使用しない：ナンバー・ディスプレイ、キャッチホン・ディスプレイ、ネーム・ディスプレイを使用しないときに選びます。
ナンバー・ディスプレイのみ使用する：ナンバー・ディスプレイだけを使用するときに選びます。
キャッチホン・ディスプレイを使用する：ナンバー・ディスプレイとキャッチホン・ディスプレイの両方を使用するときに選びます。
ネーム・ディスプレイを使用する：ナンバー・ディスプレイ、キャッチホン・ディスプレイ、ネーム・ディスプレイを使用するときに選びます。

4 ［設定］ボタンをクリックします。

※キャッチホン・ディスプレイを使用するときは、「擬似キャッチホン（マルチアンサー）」または「キャッチホン（コールウェイティング）」の設定が必要です。
☞「通話中に他の電話を受けられます（擬似キャッチホン）」〈P.107〉
☞「キャッチホン（コールウェイティング）を利用する」〈P.124〉

OnePoint!

◇制限事項

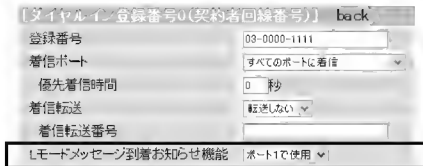
- ナンバー・ディスプレイ／キャッチホン・ディスプレイ／ネーム・ディスプレイに対応していない電話機（またはアダプタ）をつないでいる場合は、これらの機能を使用する設定にしないでください。誤動作することがあります。
- ナンバー・ディスプレイ／キャッチホン・ディスプレイ／ネーム・ディスプレイ対応電話機を1台使う場合は、TELポート1につないでください。
- ナンバー・ディスプレイ／キャッチホン・ディスプレイ／ネーム・ディスプレイの機能を使用する場合、相手側からの呼び出しから実際に自分側の呼び出し音が鳴るまでに、しばらく時間がかかります。
- 使用する電話機（またはアダプタ）の機種によっては、発信電話番号や発信電話番号非通知理由が正しく表示されないことがあります。
- ナンバー・ディスプレイ対応FAXをお使いの場合は、次のような制限があります。
  - ・こちらから発信しても、相手先の機器によっては接続できないことがあります。
  - ・擬似キャッチホン（マルチアンサー）またはキャッチホン（コールウェイティング）を利用できる設定にしている場合は、FAX通信中に着信があると、呼び出され、正しく通信できなくなることがあります。

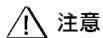
Lモード対応電話機を使用するときは

本製品にLモードに対応した電話機を接続すると、電話機のディスプレイに自動的にLメールの到着の有無などが表示されます。
Lモードに対応電話機を1台使う場合は、TELポート1につないでください。

Lモードサービス（有料）
発信者番号通知サービス（無料）
※NTTとの契約が必要です。サービスの内容について詳しくは、最寄りのNTTまでお問い合わせください。

1 設定ページの［アナログ設定（ダイヤルイン）］画面を開きます。

2 Lモードに対応した電話機を利用する契約者回線番号（ダイヤルインサービスを契約している場合は、ダイヤルイン登録番号）の［Lモードメッセージ到着お知らせ機能］を設定します。使用するポートを選択します。

3 ［設定］ボタンをクリックします。

以降、Lメールが到着したときなどに、電話機のディスプレイに自動的にその情報が表示されます。
なお、情報の検索などLモードの各種サービスを利用するときは、発信者番号を通知する必要があります。
☞「相手に電話番号を通知する／通知しないを設定できます」〈P.117〉

⚠ 注意

Lモードの契約回線1回線に対してLモードに対応した電話機を2台つないでいる場合、片方の電話機で受信したLメールは、もう一方の電話機では受信できません。

One Point!

◇制限事項
- Lモードに対応していない電話機をつないでいる場合は、Lモードメッセージ到着お知らせ機能の設定を［使用しない］に設定してください。誤動作することがあります。
- Lモードに対応した電話機を1台使う場合は、TELポート1につないでください。
- 使用する電話機の機種によっては、Lメールの到着の有無などの情報が正しく表示されないことがあります。

電話をかける/受ける

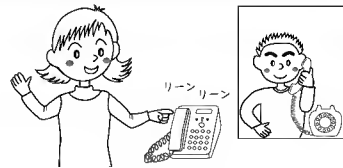
電話をかけましょう

1 受話器を上げて、発信音を確認します。

2 相手先の電話番号をダイヤルします。

※ISDN回線では、ダイヤルしてから発信するまでに時間がかかります（この時間は別途設定できます）。
すぐに発信したいときは最後に［#］ボタンを押します。

電話を受けましょう

1 呼び出し音が鳴ります。

2 受話器を上げて、相手と話します。

3 話が終わったら、受話器を置きます。

One Point!

◇電話をかけられないときは
電話機に切り替えスイッチがあるときは、「トーン」または「PB（プッシュボタン）」に設定してください。

◇サブアドレスのある電話番号に電話をかけるには
サブアドレスの前に［*］ボタンを押してダイヤルします。
例）電話番号：03-0000-1234　サブアドレス：01にかけるとき →「0300001234*01」とダイヤル

◇「110」「119」「171（災害用伝言ダイヤル）」「118（海上の事件・事故の急報）」に電話をかけるときは
電話番号をダイヤルすると、［#］ボタンを押さなくても、すぐに発信します。

◇ダイヤルしてから発信するまでの時間を設定するには
☞「ダイヤル終了から発信までの待ち時間を設定するには」〈P.103〉

内線電話をかけるには

通常の発信をするには

1 受話器を上げて、発信音を確認します。

2 フックを1回押します。（☞ 下記「フック操作について」）
"プップップッ"と聞こえます。

3 [0] ボタンを押します。

すぐに発信するには

1 受話器を上げて、発信音を確認します。

2 [＊] ボタンを押し、続けて [0] ボタンを押します。

One Point!

◇すぐに発信できないようにするには
設定ページの［アナログ設定（ポート共通）］画面の［内線の直接発信］で［しない］を選択します。

◇フック操作について
フックを押す操作は、以下のとおりです。

- 親機の場合
  フックボタンを押します。

- 子機の場合
  キャッチボタン、またはフラッシュボタンを押します。

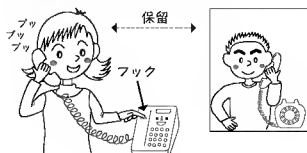
本製品につながった他の電話機に転送できます（内線転送）

通話している外線電話を、本製品のもう一方のTELポートにつないだアナログ機器へ内線転送できます。

相手が応答する前に転送するとき

1 通話中にフックを1回押します。（☞「フック操作について」〈P.99〉）

“プップップッ”と聞こえます。

※外線電話に戻りたいときは“プップップッ”と聞こえている間にフックを押してください。

2 “プップップッ”と聞こえている間に、[0]ボタンを押します。

内線呼び出し音が聞こえます。

相手側には、“ププッププッ”という保留音が聞こえます。

3 相手が応答する前に、受話器を置きます。

相手が応答すると、相手と外線電話との通話になります。

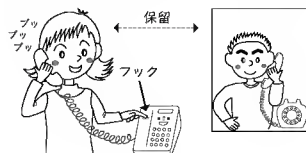
※受話器を置いた後は、外線電話に戻ることはできません。

※転送する相手が70秒以上応答しない場合、外線電話は切れます。

相手が応答した後に転送するとき

1 通話中にフックを1回押します。（☞「フック操作について」〈P.99〉）

"プップップッ”と聞こえます。

※外線電話に戻りたいときは"プップップッ”と聞こえている間にフックを押してください。

2 “プップップッ”と聞こえている間に、[0]ボタンを押します。

内線呼び出し音が聞こえます。

相手側には、"ププッププッ”という保留音が聞こえます。

3 相手が応答したら、電話を転送することを伝えて、受話器を置きます。

転送する相手が話中のときは、フックを押してください。外線電話に戻ります。

※転送する相手が先に電話を切ったときは話中音が聞こえます。話中音が聞こえている間にフックを押してください。外線電話に戻ります。

One Point!

◇制限事項

フレックスホンの三者通話〈P.126〉や通信中転送〈P.129〉を利用する設定にしているときは、内線転送できません。

◇外線電話に戻りたいとき

「相手が応答する前に転送するとき」の手順１、および「相手が応答した後に転送するとき」の手順１と３で、フックを押す代わりに受話器を置くと、内線呼び出し音が鳴ります。受話器を上げると外線電話に戻ります。

◇FAXを電話機で受けてしまったときは

受話器を上げると、"ピー”というFAX送信の機械音が聞こえることがあります。この場合、「相手が応答する前に転送するとき」の手順にしたがって、他のTELポートにつないでいるFAXに内線転送することができます。

電話番号を登録しましょう

契約者回線番号（ダイヤルインサービスの契約しているときは契約者回線番号とダイヤルイン番号）を登録します。
登録しておくと、登録した番号ごとに、電話の受け方などを決めることができます。また、本製品のさまざまな機能を使う際に必要です。

登録方法は、ダイヤルインサービスの契約のあり/なし、（さらにダイヤルインのグローバル着信のあり/なし）によって異なります。

※グローバル着信のあり/なしは、ダイヤルインサービスの契約時に選択します。
　通常はグローバル着信ありで契約することをお勧めします。

※ダイヤルインサービス、グローバル着信について詳しくは、最寄りのNTTまでお問い合わせください。

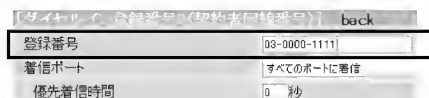
ダイヤルイン契約をしていないとき

1 ［アナログ設定］→［ポート共通］をクリックして、［アナログ設定（ポート共通）画面］を開きます。

2 契約者回線番号にかかってきた電話を着信したい場合は、グローバル着信にしておく必要があります。［ポート共通］の［グローバル着信］が「する」になっていることを確認します。（購入時の設定です。）

3 ［設定］ボタンをクリックします。

4 メニューから［アナログ設定］→［ダイヤルイン］をクリックして、［アナログ設定（ダイヤルイン）］画面を開きます。

5 「ダイヤルイン登録番号0（契約者回線番号）」の［登録番号］に、契約した「契約者回線番号」を入力します。

6 ［設定］ボタンをクリックします。

ダイヤルインをグローバル着信ありで契約したとき

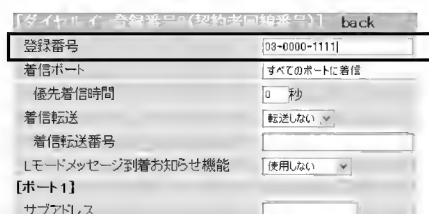
1 ［アナログ設定］→［ポート共通］をクリックして、［アナログ設定（ポート共通）］画面を開きます。

2 契約者回線番号にかかってきた電話を着信させたい場合は、［ポート共通］の［グローバル着信］を「する」にします。（購入時の設定です。）

［ポート共通］	
グローバル着信	○しない ⊙する
内線の直接発信	○しない ⊙する

3 ［設定］ボタンをクリックします。

4 ［アナログ設定］→［ダイヤルイン］をクリックして、［アナログ設定（ダイヤルイン）］画面を開きます。

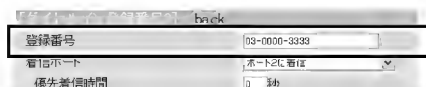
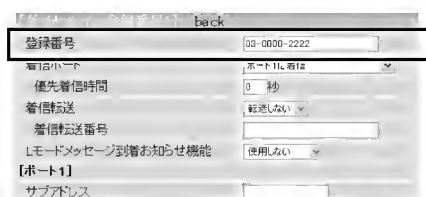
5 「ダイヤルイン登録番号0（契約者回線番号）」の［登録番号］に契約者回線番号を入力します。

6 ［ダイヤルイン登録番号1］～［ダイヤルイン登録番号3］の［登録番号］に、ダイヤルイン番号を入力します。

7 ［設定］ボタンをクリックします。

ダイヤルインをグローバル着信なしで契約したとき

1 ［アナログ設定］→［ダイヤルイン］をクリックして、［アナログ設定（ダイヤルイン）］画面を開きます。

2 ［ダイヤルイン登録番号1］～［ダイヤルイン登録番号3］の「登録番号」に、契約者回線番号とダイヤルイン番号を入力します。

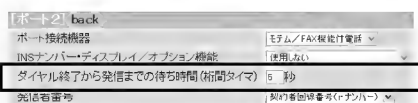
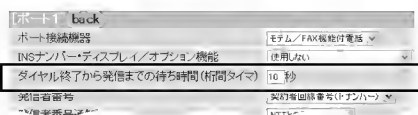
※［ダイヤルイン登録番号0（契約者回線番号）］には入力しないでください。

3 ［設定］ボタンをクリックします。

電話のかけ方を詳しく設定しましょう

ダイヤル終了から発信までの待ち時間を設定するには

ダイヤルを終了してから発信するまでの待ち時間を変えることができます。
購入時は5秒に設定されています。必要に応じて変更してください。

1 ［アナログ設定］→［ポートごと］をクリックし、［アナログ設定（ポートごと）］画面を開きます。

2 アナログ機器を接続しているポートを確認し、そのポートの［ダイヤル終了から発信までの待ち時間（桁間タイマ）］に時間を入力します。
※ 3〜50秒の間で設定できます。

3 ［設定］ボタンをクリックします。

［#］［＊］ボタンの機能を設定するには

［#］［＊］ボタンの機能を変えることができます。
購入時は、次のように設定されています。必要応じて変更してください。
［#］：ダイヤル終了後すぐに発信したいときに押す
［＊］：サブアドレスをダイヤルする前に押す

1 ［アナログ設定］→［ポートごと］をクリックし、［アナログ設定（ポートごと）］画面を開きます。

2 アナログ機器を接続しているポートを確認します。そのポートの［機能ボタン］で、［#］［＊］ボタンにどのような機能を持たせるか、次の中から選びます。

なし：機能を持たせません。数字ボタンと同じ扱いになります。
サブアドレス：サブアドレスをダイヤルする前に押すボタンにします。
発信開始：ダイヤル終了後、すぐに発信したいときに押すボタンにします。

3 ［設定］ボタンをクリックします。

ダイヤルイン登録番号ごとに着信ポートを設定する

ダイヤルイン登録番号0～3について、電話を受けるポートを設定できます。

1 ［アナログ設定］→［ダイヤルイン］をクリックして、［アナログ設定（ダイヤルイン）］画面を開きます。

2 番号を登録した［ダイヤルイン登録番号］の［着信ポート］で、次の中から選びます。

どのポートにも着信しない：どのポートにも着信しません。

ポート1に着信：ポート1にのみ着信し、ポート2には着信しません。

ポート2に着信：ポート2にのみ着信し、ポート1には着信しません。

すべてのポートに着信：すべてのポートに着信します。（購入時の設定です。）

空きポートに着信（ポート1優先）：ポート1に優先的に着信し、時間差をつけてポート2にも着信します（ポート1の呼び出しも続きます）。時間差は［優先着信時間］で設定します。…①

空きポートに着信（ポート2優先）：ポート2に優先的に着信し、時間差をつけてポート1にも着信します（ポート2の呼び出しも続きます）。時間差は［優先着信時間］で設定します。…②

3 手順2で①または②を選んだ場合、［優先着信時間］で、ポート1とポート2の着信の時間差を入力します。値は次の中から選びます。

0、5、10、15、20、25、30、35、40、45、50、55、60、75、90、105、120、135、150、165（単位：秒）

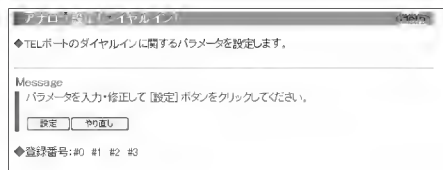
※購入時は0秒に設定されています。0秒に設定すると、着信可能なポートにのみ着信します。すべてのポートが空いているときは、①を選んだ場合はポート1のみ、②を選んだ場合はポート2にのみ着信します。

4 ［設定］ボタンをクリックします。

電話の呼び出し音を変更する

本製品では、ダイヤルイン登録番号0～3のそれぞれについて、外線が着信したときの呼び出し音を設定することができます。

外線が着信したときの呼び出し音を設定します

1 詳細設定ページの［アナログ設定］→［ダイヤルイン］をクリックし、［アナログ設定（ダイヤルイン）］画面を開きます。

2 番号を登録した［ダイヤルイン登録番号］の、設定したいポートの［外線呼び出し音］で、呼び出し音の種類を選択します。

呼び出し音1："リーン・リーン"（導入時の設定）

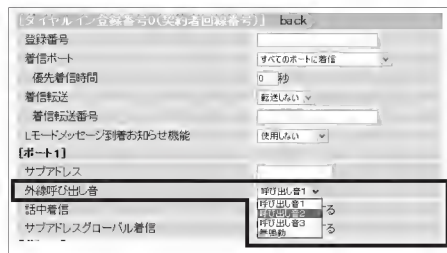
呼び出し音2："リーンリン・リーンリン"

呼び出し音3："リンリンリン・リンリンリン"

無鳴動：呼び出し音が鳴りません

3 ［設定］ボタンをクリックします。

9

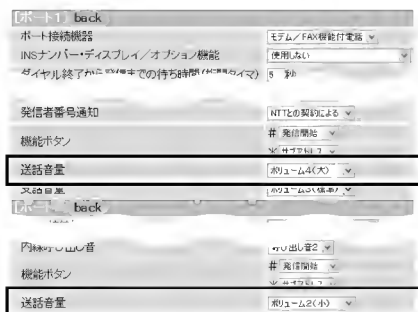
電話機やFAXを使いましょう

電話の音量を調節できます

相手の受話器に聞こえる音量と、自分側の受話器の音量を調節できます。通話しながら調節することも、あらかじめ調節しておくこともできます。

相手の受話器に送る音量を調節するとき

1 ［アナログ設定］→［ポートごと］をクリックし、［アナログ設定（ポートごと）］画面を開きます。

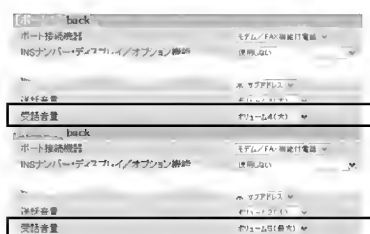
2 音量を変えたいポートの［送話音量］を設定します。次の5段階から選びます。

ボリューム1（最小）
ボリューム2（小）
ボリューム3（標準）：購入時の設定です。
ボリューム4（大）
ボリューム5（最大）

3 ［設定］ボタンをクリックします。

受話器の音量を調節するとき

1 ［アナログ設定］→［ポートごと］をクリックし、［アナログ設定（ポートごと）］画面を開きます。

2 音量を変えたいポートの［受話音量］を設定します。次の5段階から選びます。

ボリューム1（最小）
ボリューム2（小）
ボリューム3（標準）：購入時の設定です。
ボリューム4（大）
ボリューム5（最大）

3 ［設定］ボタンをクリックします。

通話中に他の電話を受けられます（擬似キャッチホン）

通話中に他の電話がかかってきたときに、その電話を受けることができます。この機能を、本製品では「マルチアンサー」と呼びます。INSネット64のフレックスホンのキャッチホン（コールウェイティング）と同じような機能です。

マルチアンサー（擬似キャッチホン）を設定しましょう

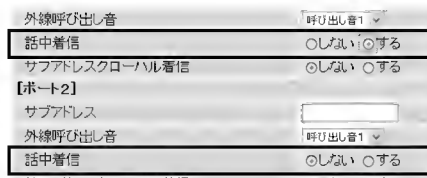
1 ［アナログ設定］→［ポート共通］をクリックし、［アナログ設定（ポート共通）］画面を開きます。

2 ［擬似フレックスホン］の［マルチアンサー］で「する」を選びます。

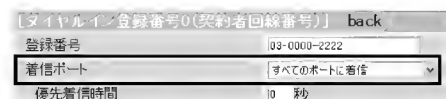
3 ［設定］ボタンをクリックします。

4 ［アナログ設定］→［ダイヤルイン］をクリックして、［アナログ設定（ダイヤルイン）］画面を開きます。

5 番号を登録した［ダイヤルイン登録番号］のポート1またはポート2で、［話中着信］を「する」にします。

マルチアンサー機能を使わないダイヤルイン登録番号やポートでは、「しない」を選びます。

6 ［着信ポート］を設定します。

マルチアンサー機能を利用するポートに着信できるように選んでください。

「ダイヤルイン登録番号ごとに着信ポートを設定する」〈P.104〉

7 ［設定］ボタンをクリックします。

◇**制限事項**

- この機能を使用する設定にしているときは、フレックスホンサービスのキャッチホン（コールウェイティング）、三者通話、通信中転送を利用できません。
- この機能を利用するTELポートには電話機をつなぎ、「アナログ設定（ポートごと）」画面の［ポート接続機器］で「電話」または「モデム／FAX機能付電話」を選んでください。「ファクシミリ」では、この機能を利用できません。

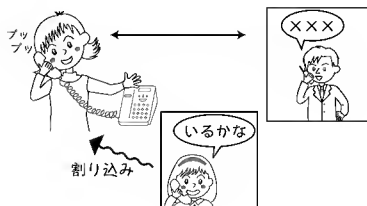
◇**手順 6 で「空きポートに着信（ポート1優先）」または「空きポートに着信（ポート2優先）」を選んだとき**

まず優先ポートが呼び出されます（通話中には話中着信します）。指定した時間が経過すると、もう一方のポートが呼び出されます。

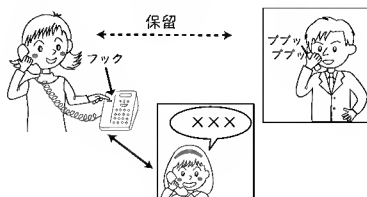
もう一方のポートも使用中のときは、優先ポートの呼び出しのみが続きます。

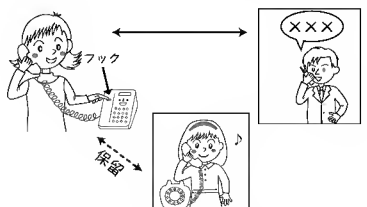
擬似キャッチホンの使い方

外線と通話中にかかってきたとき

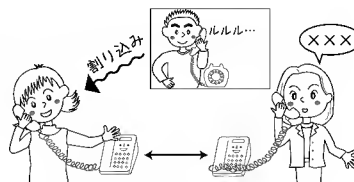
1 他の電話がかかってくると、受話器から話中着信音が聞こえます。

2 フックを1回押します。（☞「フック操作について」〈P.99〉）

押すと同時に、他の電話の相手と通話できるようになります。

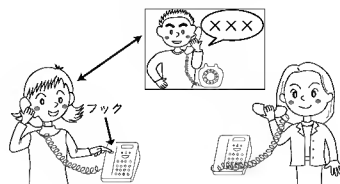
それまで通話していた相手には、“プププッププッ”という保留音が聞こえます。

3 元の相手に戻りたいときは、フックを1回押します。

受話器から“プップップッ”と聞こえ、数秒後に元の相手と通話できるようになります。

※“プップップッ”という音が聞こえている最中に［0］ボタンを押すと、本製品の他のポートにつないだ電話機に転送できます（内線転送）。☞〈P.100〉

内線通話中にかかってきたとき

1 外線電話がかかってくると、受話器から話中着信音が聞こえます。

2 どちらかの電話機で、フックを1回押します。（☞「フック操作について」〈P.99〉）

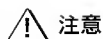
押すと同時に、外線電話の相手と通話できるようになります。

通話中だった内線は切れます。

One Point!

◇制限事項

- 1つのTELポートでこの操作を行っている間は、もう一方のTELポートで電話をかけたり受けたりすることはできません。
- 内線通話中にかかってきた電話を受けられるのは、保留されている外線がないときだけです。

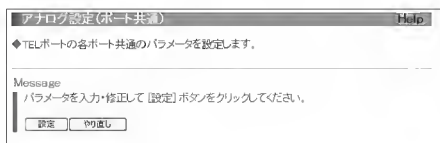
通話中、他の相手に電話をかける（通話中発信）

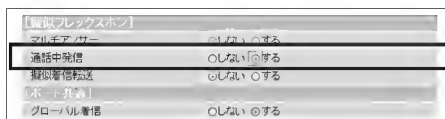
NTTと契約していなくても、INSネット64のフレックスホンの、三者通話（切り替えモードのみ）と同じような機能を使用することができます。
通話中、通話相手を保留にして、他の相手に電話をかけることができます。
この機能を「通話中発信」または「擬似三者通話」と呼びます。

⚠ 注意

- この機能は、電話以外のアナログ機器では使用できません。
- この機能を使用する設定にすると、内線転送できなくなります。
- この機能を使用する設定にすると フレックスホンサービスのキャッチホン（コールウェイティング）、三者通話、通信中転送を利用できません。

通話中発信（擬似三者通話）を設定します

1 詳細設定ページの［アナログ設定］→［ポート共通］をクリックし、［アナログ設定（ポート共通）］画面を表示させます。

2 ［擬似フレックスホン］の［通話中発信］で「する」を選択します。

3 ［設定］ボタンをクリックします。

これで設定は完了です。
通話中発信の操作手順は、次のページをお読みください。

通話中発信（擬似三者通話）をしてみましょう

1 通話中に、フックを1回押します。

受話器から“プッブップッ”と聞こえます。

2 “プッブップッ”と聞こえている間に、別の相手の電話番号をダイヤルします。

元の相手との通話は保留されます。保留されている相手側には、“ププッププッ”という保留音が聞こえます。

※別の相手の電話番号を間違えたとき、話し中などで相手が応答しないときは、一度受話器を置いてください。呼び出し音が鳴ります。受話器をとると、元の相手との通話に戻ります。

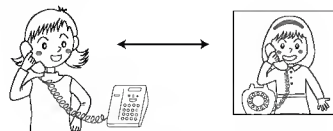
3 元の相手に戻りたいときは、フックを1回押します。

受話器から“プッブップッ”と聞こえ、数秒後に元の相手と通話できるようになります。

もう片方の相手との通話は保留されます。

4 通話を終了したいときは、受話器を置きます。

通話していた相手との通話が切れ、呼び出し音が鳴ります。

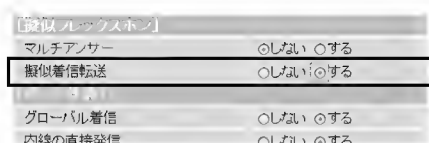
5 受話器を上げると、保留されていた相手との通話に戻ります。

6 もう一度受話器を置くと、通話が終了します。

◇ 1つのTELポートでこの操作を行っている間は、他のTELポートで電話をかけたり受けたりすることはできません。

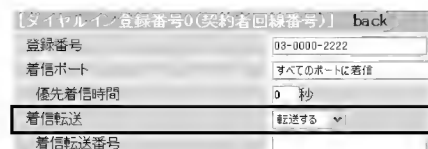
かかってきた電話を転送できます(擬似着信転送)

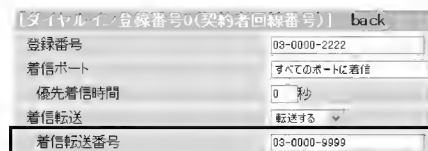
かかってきた電話を、あらかじめ登録しておいた転送先へ自動的に転送できます。INSネット64のフレックスホンの着信転送と同じような機能です。

1 [アナログ設定] → [ポート共通] をクリックして、[アナログ設定（ポート共通)] 画面を開きます。

2 [擬似フレックスホン] の [擬似着信転送] で [する] を選択します。

3 [設定] ボタンをクリックします。

4 [アナログ設定] → [ダイヤルイン] をクリックして、[アナログ設定（ダイヤルイン)] 画面を開きます。

5 番号を登録した [ダイヤルイン登録番号0〜3] の [着信転送] で転送するかどうか選択します。

6 [着信転送番号] に転送先の電話番号を入力します。

※サブアドレス付きの電話番号は、設定できません

7 [設定] ボタンをクリックします。

設定中は、本体前面のDATA/着信転送ランプが点滅します。

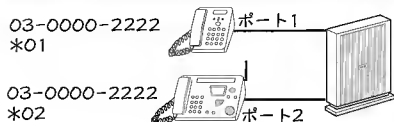
◇制限事項

- この機能を使用する設定にしているときは、フレックスホンの着信転送を利用できません。
- サブアドレスが設定されている電話番号には、転送できません。
- アナログ通信またはデータ通信で1つのBチャンネルを使用中に、着信転送の設定をしている番号に電話がかかってきたときは、着信転送できません。相手先には話中音が聞こえます。転送している間は、他のTELポートで電話をかけたり受けたりすることはできません。また、データ通信もできません。
- 転送先につながらないときでも、電話をかけてきた相手には、通話料金がかかります。

電話機とFAXを区別する番号を付けられます（サブアドレス）

サブアドレスとは、1つのISDN回線に複数の機器が接続されている場合に、それらを区別するために自由に付けることのできる番号のことです。サブアドレスを利用すれば、電話とFAXを区別して呼び出すことができます。

※サブアドレスを指定してダイヤルできるのは、ISDN回線に接続されている一部の通信機器だけです。一般電話回線（アナログ回線）の利用者は、サブアドレスを指定してダイヤルすることはできません。

次のように電話機とFAXを区別する場合の設定

「03-0000-2222*01」でかかってきたときはポート1の電話機に着信

「03-0000-2222*02」でかかってきたときはポート2のFAXに着信

1 ［アナログ設定］→［ダイヤルイン］をクリックして、［アナログ設定（ダイヤルイン）］画面を開きます。

2 契約者回線番号とダイヤルイン番号を登録します。

☞「電話番号を登録しましょう」〈P.101〉

3 ポート1、ポート2の［サブアドレス］に、各ポートで登録したいサブアドレスを入力します。

4 ［着信ポート］で、「すべてのポートに着信」を選びます。

[ダイヤルイン登録番号0(契約者回線番号)]	back
登録番号	03-0000-2222
着信ポート	すべてのポートに着信
優先着信時間	0 秒

5 ［サブアドレスグローバル着信］で、サブアドレスグローバル着信をするかどうかを選びます。

する：相手がサブアドレスを付けずにダイヤルしてきても、電話やFAXを受けることができます。

しない：相手がサブアドレスを付けずにダイヤルしてくると、電話やFAXを受けられません。（購入時の設定です。）

※サブアドレスを指定してダイヤルできるのは、ISDN回線に接続されている一部の通信機器だけです。一般電話回線（アナログ回線）の利用者は、サブアドレスを指定してダイヤルすることはできません。
一般電話回線を利用している相手からも電話やFAXを受けたいときは、「する」を選んでください。

話中着信	◉しない ○する
サブアドレスグローバル着信	○しない ◉する
[ポート2]	
サブアドレス	02
話中着信	◉しない ○する
サブアドレスグローバル着信	◉しない ○する

6 ［設定］ボタンをクリックします。

◇電話機とFAXを確実に区別して呼び出したい場合は

相手が一般電話回線（アナログ回線）の利用者であっても、電話機とFAXを確実に区別して呼び出したい場合は、ダイヤルインサービスの契約（有料）またはｉ・ナンバーの契約（有料）をして、ダイヤルイン番号またはｉ・ナンバー追加番号を指定することをお勧めします。

☞「電話機とFAXに別々の電話番号を付けられます（ダイヤルインサービスとグローバル着信）」〈P.120〉
☞「ｉ・ナンバーを利用できます」〈P.121〉

モデムダイヤルイン機能を設定する

本製品のTELポートに、モデムダイヤルイン対応の機器を接続しているとき、モデムダイヤルイン機能が利用できます。モデムダイヤルイン機能の設定を行うと、着信した番号により、接続している機器の機能を使い分けることができます。
INSネット64の付加サービス「i・ナンバー」を契約している場合も、着信により使い分けが可能です。
※TELポートに接続した電話機/FAX/モデムが、モデムダイヤルインに対応している必要があります。

設定手順

詳細設定ページのアナログ設定で、次の順に設定します。

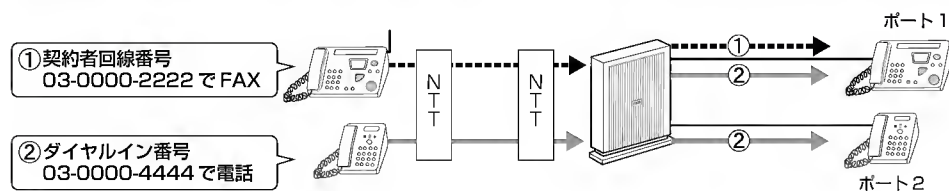
① ［アナログ設定（ポートごと)］画面で、機能を使い分けたいポートの［ナンバー・ディスプレイ/オプション機能］を［使用しない］以外に設定

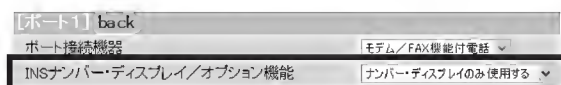
② i・ナンバーを契約している場合のみ、［アナログ設定（ポート共通)］画面で［i・ナンバー］を［カスタマイズモードで利用する］に設定

③ ［アナログ設定（ダイヤルイン)］画面で、番号、および着信したいポートを設定

以下、具体例を挙げて詳しく解説します。

設定例（1）モデムダイヤルイン機能で番号を使い分ける

次のようにFAXと電話機を区別する場合を例に、解説します。

契約者回線番号（03-0000-2222）にかかってきたら　→ TELポート1のFAXに着信したい
ダイヤルイン番号（03-0000-4444）にかかってきたら → TELポート1/2で受信し、音声通話をしたい

1 詳細設定ページの［アナログ設定］→［ポートごと］をクリックして、［アナログ設定（ポートごと)］画面を開きます。ここではポート1のFAXのみ機能を使い分けたいので、［ポート1］の［INSナンバー・ディスプレイ／オプション機能］を［使用しない］以外に設定します。

※上の画面は、「ナンバー・ディスプレイのみ使用する」に設定した場合の例です。

2 ［設定］ボタンをクリックします。

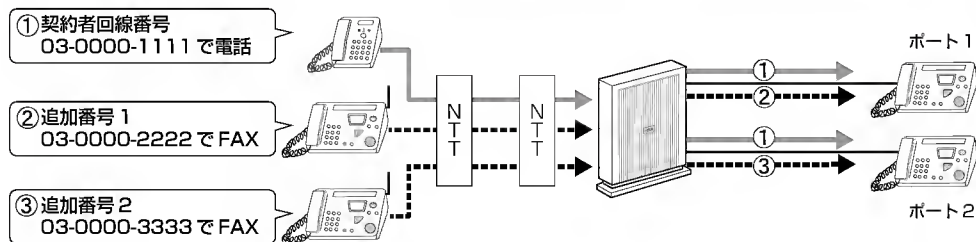
3 ［アナログ設定］→［ダイヤルイン］をクリックして、［アナログ設定（ダイヤルイン）］画面を開きます。
最初に契約者回線番号の設定を行います。［ダイヤルイン登録番号0］の［登録番号］に「03-0000-2222」を設定し、［着信ポート］を［ポート1に着信］に設定します。

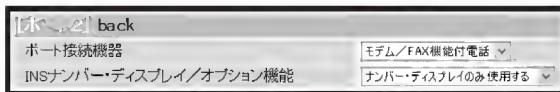
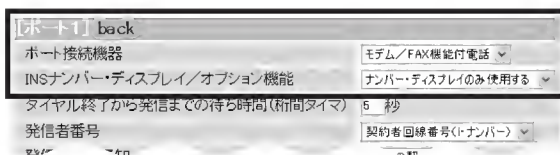
4 同じ［アナログ設定（ダイヤルイン）］画面で、ダイヤルイン番号の設定を行います。
［ダイヤルイン登録番号1］の［登録番号］に「03-0000-4444」を設定し、［着信ポート］を［すべてのポートに着信］に設定します。

5 ［設定］ボタンをクリックします。

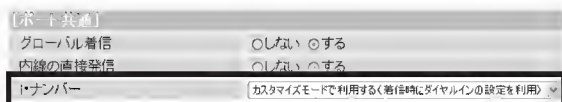
以上で設定は終了です。以降、モデムダイヤルイン機能が使用できるようになります。

設定例2）i・ナンバーを契約している場合

次のようにFAXと電話機を区別する場合を例に、解説します。

契約者回線番号（03-0000-1111）にかかってきたら → TELポート1/2で受信し、音声通話をしたい
追加番号1（03-0000-2222）にかかってきたら → TELポート1のFAXに着信したい
追加番号2（03-0000-3333）にかかってきたら → TELポート2のFAXに着信したい

1 詳細設定ページの［アナログ設定］→［ポートごと］をクリックして、［アナログ設定（ポートごと）］画面を開きます。ここでは、ポート1、2ともに機能を使い分けたいので、両方の［INSナンバー・ディスプレイ／オプション機能］を［使用しない］以外に設定します。

※上の画面は、両方とも「ナンバー・ディスプレイのみ使用する」に設定した場合の例です。

2 ［設定］ボタンをクリックします。

3 i・ナンバーの設定を「カスタマイズモード」にします。
［アナログ設定］→［ポート共通］をクリックして、［アナログ設定（ポート共通)］画面を開き、［i・ナンバー］を［カスタマイズモードで利用する］に設定します。

4 ［設定］ボタンをクリックします。

5 ［アナログ設定］→［ダイヤルイン］をクリックして、［アナログ設定（ダイヤルイン)］画面を開きます。
最初に契約者回線番号の設定を行います。［ダイヤルイン登録番号0］の［登録番号］に「03-0000-1111」を設定し、［着信ポート］を［すべてのポートに着信］に設定します。

6 同じ［アナログ設定（ダイヤルイン)］画面で、追加番号の設定を行います。

［ダイヤルイン登録番号1］の［登録番号］に「03-0000-2222」を設定し、［着信ポート］を［ポート1に着信］に設定します。
また、［ダイヤルイン登録番号2］の［登録番号］に「03-0000-3333」を設定し、［着信ポート］を［ポート2に着信］に設定します。

7 ［設定］ボタンをクリックします。

以上で設定は終了です。以降、モデムダイヤルイン機能が使用できるようになります。

相手に電話番号を通知する/通知しないを設定できます

INSネット64の契約時には、発信者番号通知サービスを「通常通知（通話ごと非通知）」「通常非通知（回線ごと非通知）」「常時通知拒否」から選択します。本製品では、発信者番号を通知するかしないかを、契約とは関係なく設定できます。また、相手にどの番号を通知するかも指定できます。

発信者番号通知サービス（無料）
※INSネット64の契約時に契約します（必須項目）。サービスの内容について詳しくは、最寄りのNTTまでお問い合わせください。

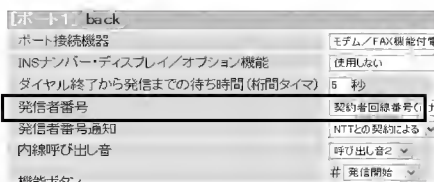
1 相手先に通知する契約者回線番号およびダイヤルイン番号を登録します。
☞「電話番号を登録しましょう」〈P.101〉

2 [アナログ設定] → [ポートごと] を選択し、[アナログ設定（ポートごと）] 画面を開きます。

3 ポート1またはポート2の [発信者番号] を設定します。相手に通知する番号を、次の中から選びます。

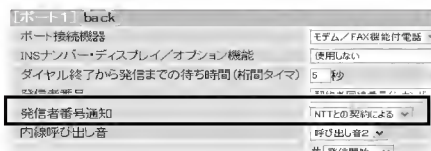
契約者回線番号（i・ナンバー）：契約者回線番号を通知します。i・ナンバーを契約している場合、ポート1のときは契約者回線番号、ポート2のときはi・ナンバー追加番号を通知します。（購入時の設定です。）

ダイヤルイン登録番号0：ダイヤルイン登録番号0（契約者回線番号）に登録した番号を通知します。

ダイヤルイン登録番号1/2/3：ダイヤルイン登録番号1/2/3に登録した番号を通知します。

4 [発信者番号通知] を設定します。次の中から、発信者番号の通知方法を選びます。

NTTとの契約による：発信者番号通知サービスの契約通りに、通知または非通知になります。（購入時の設定です。）

通常通知：原則として通知になります。相手先の電話番号の前に「184」をつけてダイヤルすると、非通知になります。

通常非通知：原則として非通知になります。相手先の電話番号の前に「186」をつけてダイヤルすると、通知になります。

5 [設定] ボタンをクリックします。

◇制限事項
「常時通知拒否」で契約した場合は、本製品の設定にかかわらず発信者番号が非通知になります。

◇発信者番号の通知/非通知について

発信者番号の通知/非通知は、発信者番号通知サービスの契約内容と、本製品の設定内容によって変わります。

また、電話をかけるときに相手先の電話番号の前に次の番号をつけてダイヤルすることによっても変わります。

・電話番号の前に「184」をつけてダイヤル　→非通知
・電話番号の前に「186」をつけてダイヤル　→通知

• 「通常通知（通話ごと非通知）」で契約した方は・・・

	［発信者番号通知］の設定		
	「NTTとの契約による」を選んだとき	「通常通知」を選んだとき	「通常非通知」を選んだとき
電話番号だけ	［発信者番号］で選んだ番号が通知されます。		非通知になります。
電話番号の前に「184」	非通知になります。		
電話番号の前に「186」	［発信者番号］で選んだ番号が通知されます。		

• 「通常非通知（回線ごと非通知）」で契約した方は・・・

	［発信者番号通知］の設定		
	「NTTとの契約による」を選んだとき	「通常通知」を選んだとき	「通常非通知」を選んだとき
電話番号だけ	非通知になります。	［発信者番号］で選んだ番号が通知されます。	非通知になります。
電話番号の前に「184」	非通知になります。		
電話番号の前に「186」	［発信者番号］で選んだ番号が通知されます。		

• 「常時通知拒否」で契約した方は・・・

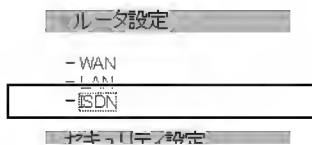
［発信者番号通知］で何を選んでも、通知されません。

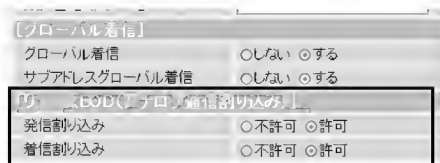
また、電話番号の前に「184」または「186」をつけてダイヤルすると、相手先につながりません。

パソコンで通信中でも、電話機やFAXを使うことができます

LAN上のパソコンが、2本のBチャネルを使ってMP通信をしているときでも、アナログ機器を使うことができます（購入時の設定です）。

契約 NTT
通信中着信通知サービス（無料）
※NTTとの契約が必要です。サービスの内容について詳しくは、最寄りのNTTまでお問い合わせください。

1 設定ページの画面左側の「ルータ設定」→「ISDN」をクリックし、「ルータ設定（ISDN）」画面を開きます。

2 ［リソースBOD（アナログ通信割り込み）］の［発信割り込み］を設定します。

不許可：パソコンでの通信状態によっては、アナログ機器から発信できないことがあります。
許可：パソコンで2本のBチャネルを使ってMP通信中でも、アナログ機器から発信できます。（購入時の設定です。）

3 ［リソースBOD（アナログ通信割り込み）］の［着信割り込み］を設定します。

不許可：パソコンで2本のBチャネルを使ってMP通信中は着信できません。
許可：パソコンで2本のBチャネルを使ってMP通信中でも、アナログ機器で着信できます。（購入時の設定です。）

4 ［設定］ボタンをクリックします。

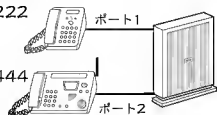
◇制限事項
RS-232C シリアルポートに接続したパソコンでMP通信中は、この機能は使用できません。

電話機とFAXに別々の電話番号を付けられます（ダイヤルインサービスとグローバル着信）

INSネット64 付加サービス（有料）

ダイヤルインとグローバル着信を組み合わせて利用し、本製品の設定をすれば、ダイヤルイン番号を1つ契約するだけで、電話機とFAXを区別して呼び出すことができます。相手が一般電話回線（アナログ回線）からかけてきても同じです。

契約 NTT　ダイヤルインサービス（有料）
※NTTとの契約が必要です。契約時に、グローバル着信のあり/なしを選択します。通常はグローバル着信ありで契約することをお勧めします。サービスの内容について詳しくは、最寄りのNTTまでお問い合わせください。

次のように電話機とFAXを区別する場合を例に解説します。

契約者回線番号（03-0000-2222）にかかってきたら
→TELポート1の電話機に着信
ダイヤルイン番号（03-0000-4444）にかかってきたら
→TELポート2のFAXに着信

グローバル着信ありで契約したとき

1 ［アナログ設定］→［ポート共通］を選択し、［アナログ設定（ポート共通）］画面を開きます。

2 ［ポート共通］の［グローバル着信］を「する」にします。（購入時の設定です。）

［ポート共通］	
グローバル着信	○しない ⊙する
内線の直接発信	○しない ⊙する

3 ［設定］ボタンをクリックします。

4 ［アナログ設定］→［ダイヤルイン］を選択します。

5 契約者回線番号とダイヤルイン番号を登録します。
☞ 「電話番号を登録しましょう」〈P.101〉

6 それぞれの［ダイヤルイン登録番号］の［着信ポート］で、次のように設定します。
ダイヤルイン登録番号0（契約者回線番号）：「ポート1に着信」を選びます。
ダイヤルイン登録番号1～3：「ポート2に着信」を選びます。

［ダイヤルイン登録番号0(契約者回線番号)］ back	
登録番号	03-0000-2222
着信ポート	ポート1に着信

［ダイヤルイン登録番号1］ back	
登録番号	03-0000-4444
着信ポート	ポート2に着信

7 ［設定］ボタンをクリックします。

グローバル着信なしで契約したとき

1 ［アナログ設定］→［ダイヤルイン］を選択し、［アナログ設定（ダイヤルイン）］画面を開きます。

2 契約者回線番号とダイヤルイン番号を登録します。
☞ 「電話番号を登録しましょう」〈P.101〉

3 それぞれの「ダイヤルイン登録番号」の［着信ポート］で、次のように設定します。
契約者回線番号を登録したダイヤルイン登録番号1～3：「ポート1に着信」を選びます。
ダイヤルイン番号を登録したダイヤルイン登録番号1～3：「ポート2に着信」を選びます。

［ダイヤルイン登録番号0(契約者回線番号)］ back	
登録番号	03-0000-2222
着信ポート	ポート1に着信

［ダイヤルイン登録番号1］ back	
登録番号	03-0000-4444
着信ポート	ポート2に着信

4 ［設定］ボタンをクリックします。

i・ナンバーを利用できます

i・ナンバーは、1回線で最大3つの電話番号（契約者回線番号、追加番号1、追加番号2）を持つことができるサービスです。
i・ナンバーを契約すると、3つの電話番号で本製品のTELポートを使い分けることができます。

契約 NTT

i・ナンバー（有料）
※NTTとの契約が必要です。各サービスの内容について詳しくは、最寄りのNTTまでお問い合わせください。
※i・ナンバーとダイヤルインサービスを同時に契約することはできません。

購入時のままでもi・ナンバーを使用できます

本製品では、購入時の状態でもi·ナンバーが「かんたんモード」で使用できます。特別な設定は必要ありません。

◎「かんたんモード」では、2つめの電話番号までを使い分けることができます。

（例）

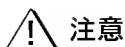
●契約者回線番号　　：111-1111
●i・ナンバー追加番号　：222-2222

<発信のとき>
TELポート1から発信したとき：相手先に発番号「111-1111」が通知されます
TELポート2から発信したとき：相手先に発番号「222-2222」が通知されます
※契約が「回線ごと非通知」の場合は、「186」つきでダイヤルすると上と同じように番号通知します。

<着信のとき>
「111-1111」にかかってきたとき：TELポート1に接続した機器が着信します
「222-2222」にかかってきたとき：TELポート2に接続した機器が着信します

◎i・ナンバーの「かんたんモード」のままでは、次のことができません。

・3つめの電話番号を利用する
・外線呼び出し音の変更
・フレックスホンの着信転送
・着信ポートの設定変更など

これらの機能を使用したい場合は、次のページの解説に従って、「カスタマイズモード」に切り替える必要があります。

⚠ 注意

- i・ナンバーを契約していないときは、［i・ナンバー］を「利用しない」に設定してください。
- i・ナンバーを契約していて、［i・ナンバー］を「利用しない」に設定すると、どの番号に電話がかかってきても、「アナログ設定（ダイヤルイン）」画面の［ダイヤルイン登録番号0］で設定した条件に従って着信します。
- PBX（構内交換機）を経由している場合、PBXの種類によってはi・ナンバーを利用する設定にしていると、発着信が正常にできないことがあります。発信できない場合、および着信時に鳴り分けができない場合などは、i・ナンバーを利用しない設定にしてください。

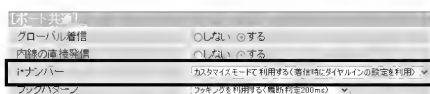
i・ナンバーの設定を［利用しない］または［カスタマイズモード］に変更するには

1 ［アナログ設定］→［ポート共通］を選択し、［アナログ設定（ポート共通）］画面を開きます。

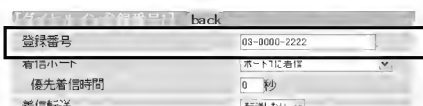
2 ［i・ナンバー］で、次の中から選びます。

カスタマイズモードで利用する（着信時にダイヤルインの設定を利用）：フレックスホンの着信転送を利用したいときや、着信時の条件を変更したいとき、i・ナンバーの3つの電話番号を使って着信時に鳴り分けをしたいときに選びます。

利用しない：i・ナンバーを契約していないときに選びます。

［ポート共通］
グローバル着信 ○しない ◎する
内線の直接発信 ○しない ◎する
i·ナンバー カスタマイズモードで利用する（着信時にダイヤルインの設定を利用）
フッキングパターン フッキングを利用する（瞬断判定200ms）

3 ［設定］ボタンをクリックします。

4 手順2で「カスタマイズモードで利用する」を選んだときは、「アナログ設定（ダイヤルイン）」画面で、次のように設定します。

- ［ダイヤルイン登録番号0（契約者回線番号）］の［登録番号］に契約者回線番号を登録し、必要に応じて他の項目を設定
- ［ダイヤルイン登録番号1］の［登録番号］に追加番号1を登録し、必要に応じて他の項目を設定
- 追加番号2があれば、［ダイヤルイン登録番号2］の［登録番号］に追加番号2を登録し、必要に応じて他の項目を設定

5 ［設定］ボタンをクリックします。

かんたんモードの詳細について

◎発信時、発信者番号は次のように通知されます

TELポート1の電話機から発信 → 契約者回線番号
TELポート2の電話機から発信 → 追加番号1

※発信者番号通知サービスを「通常非通知（回線ごと非通知）」で契約した方は、電話番号の前に「186」をつけると、上記の番号が通知されます。

◎着信するときは、次のポートが呼び出されます

契約者回線番号でかかってきたとき → TELポート1
追加番号1でかかってきたとき → TELポート2
追加番号2でかかってきたとき → 両方のTELポート

※着信するときの条件は、次のように固定されます。
話中着信：する（「アナログ設定（ポート共通）」画面の［マルチアンサー］または［キャッチホン（コールウェイティング）］を「する」に設定してください）
着信転送：使用できません

※相手からサブアドレス付きで電話がかかってきても、着信できません。

※かんたんモードに設定している場合は、以下の項目の設定内容が無効になります。
・「アナログ設定（ダイヤルイン）」画面-［登録番号］以外の設定項目
・「アナログ設定（ポート共通）」画面-［グローバル着信］

カスタマイズモードの設定例

◎契約した3つの番号を次のように使用したいとき

●契約者回線番号　111-1111
　→　TELポート1の電話で利用したい

●i・ナンバー追加番号1　222-2222
　→　TELポート2の電話で利用したい

●i・ナンバー追加番号2　333-3333
　→　両方のポートの電話で利用したい

◎次のように設定してください

i・ナンバーの設定をカスタマイズモードにしたあと、［詳細設定］→［アナログ設定］→［ダイヤルイン］を開き、次の内容を登録します。

●ダイヤルイン登録番号0（契約者回線番号）
登録番号　：111-1111
着信ポート　：ポート1に着信

●ダイヤルイン登録番号1
登録番号　：222-2222
着信ポート　：ポート2に着信

●ダイヤルイン登録番号2
登録番号　：333-3333
着信ポート　：すべてのポートに着信

フレックスホンを利用できます ① フレックスホンとは

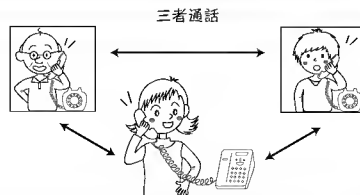
フレックスホンは、INSネット64の付加サービスです（有料）。フレックスホンには、次の4つの機能があります。フレックスホンの契約時に、使いたい機能を選択します。

フレックスホンサービス（有料）
※NTTとの契約が必要です。その場合、下記の4つのサービスをまとめて契約することも、個別に契約することも可能です。各機能に必要な契約内容は、各機能の解説ページをご覧ください。また、各サービスの内容について詳しくは、最寄りのNTTまでお問い合わせください。

キャッチホン（コールウェイティング）

通話中に他の電話がかかってきたときに、その電話を受けて話をすることができる機能です。
☞「キャッチホン（コールウェイティング）を利用する」〈P.124〉

三者通話

通話中に別の相手を呼び出して3人で話ができる機能です。
☞「三者通話を利用する」〈P.126〉

通信中転送

通話中に別の相手を呼び出して、その電話を転送する機能です。
☞「通信中転送を利用する」〈P.129〉

着信転送

かかってきた電話を、自動的に他の回線番号に転送する機能です。
☞「着信転送を利用する」〈P.132〉

フレックスホンを利用できます②
キャッチホン（コールウェイティング）を利用する

フレックスホンのキャッチホン（コールウェイティング）を契約していると、通話中に別の相手から電話がかかってくると受話器に話中着信音が聞こえ、通話する相手を切り替えることができます。

契約 NTT

フレックスホンサービスの「INSキャッチホン（コールウェイティング）」（有料）
通信中着信通知サービス（無料）
※NTTとの契約が必要です。各サービスの内容について詳しくは、最寄りのNTTまでお問い合わせください。

キャッチホンを設定しましょう

1 ［アナログ設定］→［ポート共通］を選択し、［アナログ設定（ポート共通）］画面を開きます。

2 ［擬似フレックスホン］の［マルチアンサー］で「しない」を選びます。（購入時の設定です。）

3 ［フレックスホン］の［キャッチホン（コールウェイティング）］で「する」を選びます。

4 ［設定］ボタンをクリックします。

5 ［アナログ設定］→［ダイヤルイン］を選択し、［アナログ設定（ダイヤルイン）］画面を開きます。

6 キャッチホン（コールウェイティング）を契約した契約者回線番号またはダイヤルイン番号を登録します。

［ダイヤルイン登録番号0(契約者回線番号)］ back
登録番号 03-0000-2222

7 番号を登録した［ダイヤルイン登録番号］のポート1またはポート2で、「話中着信」を「する」にします。

キャッチホンを利用しないポートでは、「しない」を選びます。

8 ［着信ポート］を設定します。

キャッチホンを利用するポートに着信できるように選んでください。
☞「ダイヤルイン登録番号ごとに着信ポートを設定する」〈P.104〉

9 ［設定］ボタンをクリックします。

One Point!

◇制限事項

- 擬似キャッチホン（マルチアンサー）または通話中発信機能を使用する設定にしているときは、キャッチホン（コールウェイティング）を利用できません。
- キャッチホン（コールウェイティング）を利用するTELポートには電話機をつなぎ、「アナログ設定（ポートごと）」画面の［ポート接続機器］で「電話」または「モデム／FAX機能付電話」を選んでください。電話以外のアナログ機器では、キャッチホン（コールウェイティング）を利用できません。
  ☞「TELポートの機器を指定する」〈P.93〉

◇手順 8 で［空きポートに着信（ポート1優先）］または［空きポートに着信（ポート2優先）］を選んだときの着信

まず優先ポートが呼び出されます（通話中は話中着信）。指定した時間が経過すると、他のポートが呼び出されます。他のポートが使用中のとき、またはBチャネルに空きがないときは、優先ポートの呼び出しのみが続きます。

キャッチホンを使うには

1 通話中に、受話器に話中着信音が聞こえます。

他の電話がかかってきたことを知らせる音です。

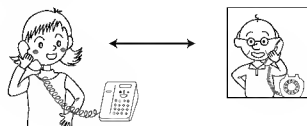
2 フックを1回押します。（☞「フック操作について」〈P.99〉）

かかってきた電話の相手と通話できるようになります。
元の相手との通話は保留されます。

3 元の相手との通話に戻りたいときは、もう一度フックを1回押します。

4 通話を終了したいときは、受話器を置きます。

通話していた相手との通話が切れ、呼び出し音が鳴ります。

5 受話器を上げると、保留されていた相手との通話になります。

6 もう一度受話器を置くと、通話が終了します。

One Point!

◇キャッチホン（コールウェイティング）の設定と同時に、三者通話または通信中転送の設定もしているとき

キャッチホンだけの場合は、手順 2 と手順 3 でフックを押した後、すぐに通話になりますが、三者通話または通信中転送も設定している場合は、受話器から“プップップッ”と2〜3秒聞こえてから、通話に切り替わります。

フレックスホンを利用できます ③ 三者通話を利用する

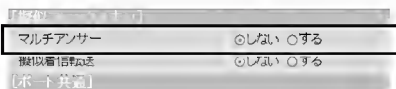
フレックスホンの三者通話を契約していると、通話中の相手を保留して別の相手へ電話をかけられます。また、通話中にかかってきた電話の相手を含めて3人で話したり、通話中に別の相手を呼び出して3人で話すこともできます。

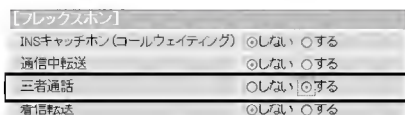
契約 NTT
フレックスホンサービスの「三者通話」（有料）
※NTTとの契約が必要です。サービスの内容について詳しくは、最寄りのNTTまでお問い合わせください。

三者通話を設定しましょう

1 ［アナログ設定］→［ポート共通］をクリックし、［アナログ設定（ポート共通）］画面を開きます。

2 ［擬似フレックスホン］の［マルチアンサー］で「しない」を選びます。（購入時の設定です。）

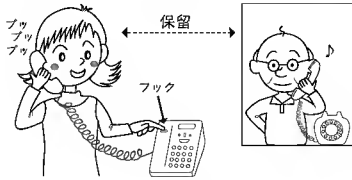
［擬似フレックスホン］	
マルチアンサー	⊙しない ○する
擬似着信転送	⊙しない ○する
［ポート共通］	

3 ［フレックスホン］の［三者通話］で「する」を選びます。

［フレックスホン］	
INSキャッチホン（コールウェイティング）	⊙しない ○する
通信中転送	⊙しない ○する
三者通話	○しない ⊙する
着信転送	⊙しない ○する

4 ［設定］ボタンをクリックします。

One Point!

◇制限事項
擬似キャッチホン（マルチアンサー）または通話中発信の機能を使用する設定にしているときは、三者通話を利用できません。

三者通話を使う ❶ 通話中に別の相手にかける（三者通話切替モード）

1 通話中に、フックを1回押します。（☞「フック操作について」〈P.99〉）

受話器から“プップップッ”と聞こえます。

2 “プップップッ”と聞こえている間に、別の相手の電話番号をダイヤルします。

元の相手との通話は保留されます。保留されている相手側には、保留音が聞こえます。

※別の相手の電話番号を間違えたとき、話し中などで相手が応答しないときは、一度受話器を戻してください。呼び出し音が鳴ります。電話をとると、元の相手との通話に戻ります。

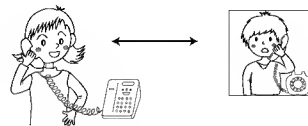
3 元の相手との通話に戻りたいときは、もう一度フックを1回押します。

“プップップッ”と聞こえ、数秒後に元の相手との通話に戻ります。

もう片方の相手との通話は保留されます。

4 通話を終了したいときは、受話器を置きます。

通話していた相手との通話が切れ、呼び出し音が鳴ります。

5 受話器を上げると、保留されていた相手との通話になります。

6 もう一度受話器を置くと、通話が終了します。

三者通話を使う ❷ 三者で通話する（三者通話ミキシングモード）

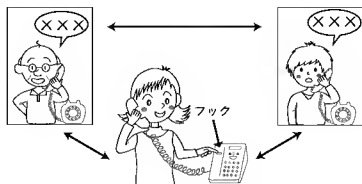
通話中に別の相手に電話をかけたり、キャッチホン（コールウェイティング）時に別の相手から電話を受けたりします。

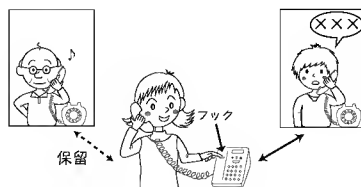
1 片方の相手と通話中で、片方の相手は保留中という状態になります。

2 この状態で、フックを1回押します。（☞「フック操作について」〈P.99〉）

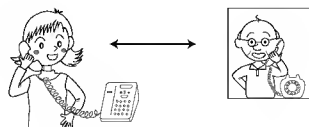
受話器から“プップップッ”という音が聞こえ、通話は一次中断されます。

3 “プップップッ”と聞こえている間に、もう一度フックを1回押します。

3人で通話できるようになります。
※ここで受話器を置くと、両方との通話が終了します。

4 手順1で通話していた相手との通話に戻りたいときは、フックを1回押します。

“プップップッ”と聞こえ、数秒後にその相手との通話に戻ります。
もう片方の相手は保留されます。

5 通話を終了したいときは、受話器を置きます。

通話していた相手との通話が切れ、呼び出し音が鳴ります。

6 受話器を上げると、保留されていた相手との通話になります。

7 もう一度受話器を置くと、通話が終了します。

One Point!

◇制限事項
1つのTELポートで三者通話（切替モード、ミキシングモード）をしている間は、他のTELポートで三者通話および通信中転送を利用できません。

フレックスホンを利用できます ④ 通信中転送を利用する

フレックスホンの通信中転送を契約していると、相手からかかってきた電話を別の相手へ転送できます。転送先の相手が応答する前に転送する方法と、相手が応答した後に転送する方法があります。

フレックスホンサービスの「通信中転送」（有料）
※NTTとの契約が必要です。サービスの内容について詳しくは、最寄りのNTTまでお問い合わせください。

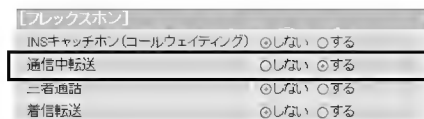
通信中転送を使用しましょう

1 ［アナログ設定］→［ポート共通］をクリックし、［アナログ設定（ポート共通）］画面を開きます。

2 ［擬似フレックスホン］の［マルチアンサー］で「しない」を選びます。（購入時の設定です。）

［擬似フレックスホン］	
マルチアンサー	⊙しない ○する
擬似着信転送	⊙しない ○する
［ポート共通］	

3 ［フレックスホン］の［通信中転送］で「する」を選びます。

［フレックスホン］	
INSキャッチホン（コールウェイティング）	⊙しない ○する
通信中転送	○しない ⊙する
三者通話	⊙しない ○する
着信転送	⊙しない ○する

4 ［設定］ボタンをクリックします。

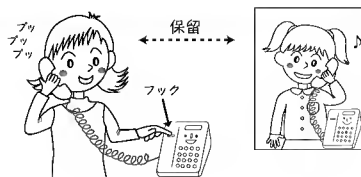
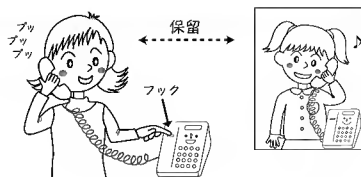
One Point!

◇制限事項
擬似キャッチホン（マルチアンサー）または通話中発信機能を使用する設定にしているときは、通信中転送を利用できません。

通信中転送を使う ❶ 相手が応答する前に転送するとき

1 電話をかけてきた相手との通話中に、フックを1回押します。
(「フック操作について」〈P.99〉)

受話器から“プッププッ”と聞こえます。

※通信中転送できるのは、かかってきた電話だけです。

2 “プッププッ”と聞こえている間に、別の相手の電話番号をダイヤルします。

元の相手との通話は保留されます。保留されている相手側には、保留音が聞こえます。

※別の相手の電話番号を間違えたとき、話し中などで相手が応答しないときは、一度受話器を戻してください。呼び出し音が鳴ります。電話をとると、元の相手との通話に戻ります。

3 相手が応答する前に、受話器を置きます。

相手が応答すると、保留されていた相手との通話になります。

※転送する相手が一般電話回線（アナログ回線）のときは、転送されないことがあります（詳しくはNTTまでお問い合わせください)。その場合は、そのまま通話が終わります。ただし、そのときの通信の状態によっては、受話器を置いた後に呼び出し音が鳴ることがあります。その場合は、電話をとると元の相手との通話に戻ります。

通信中転送を使う ❷ 相手が応答した後に転送するとき

1 電話をかけてきた相手との通話中に、フックを1回押します。（「フック操作について」〈P.99〉）

受話器から"プップップッ"と聞こえます。

※通信中転送できるのは、かかってきた電話だけです。

2 "プップップッ"と聞こえている間に、別の相手の電話番号をダイヤルします。

元の相手との通話は保留されます。保留されている相手側には、保留音が聞こえます。

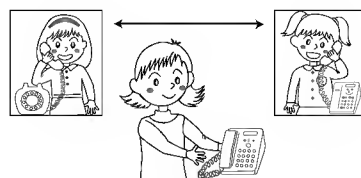
※別の相手の電話番号を間違えたとき、話し中などで相手が応答しないときは、一度受話器を戻してください。呼び出し音が鳴ります。電話をとると、元の相手との通話に戻ります。

3 相手が応答したら、フックを1回押します。

受話器から"プップップッ"と聞こえます。

4 受話器から"プップップッ"と聞こえたら、すぐに受話器を置きます。

応答した相手と保留されていた相手との通話になります。

※音が聞こえる時間は2～3秒です。転送するときは音が聞こえたらすぐに受話器を置いてください。音が消えた後も受話器をあげたままにしておくと、保留されていた相手との通話に戻ります。その時点で受話器を置くと、通話が切れてしまいます。

One Point!

◇制限事項

- 1つのTELポートで転送の操作をしている間は、他のTELポートで通信中転送および三者通話を利用できません。
- 自分からかけた電話を別の相手に転送することはできません。転送できるのは相手からかかってきた電話だけです。

フレックスホンを利用できます ⑤ 着信転送を利用する

フレックスホンの着信転送を契約していると、かかってきた電話を、あらかじめ登録しておいた転送先へ自動的に転送できます。

契約 NTT
フレックスホンサービスの「着信転送」（有料）
通信中着信通知サービス（無料）
※NTTとの契約が必要です。各サービスの内容について詳しくは、最寄りのNTTまでお問い合わせください。

着信転送を設定しましょう

1 ［アナログ設定］→［ポート共通］をクリックして、［アナログ設定（ポート共通）］画面を開きます。

2 ［擬似フレックスホン］の［擬似着信転送］で「しない」を選びます。（購入時の設定です。）

3 ［フレックスホン］の［着信転送］で「する」を選びます。

［フレックスホン］
INSキャッチホン（コールウェイティング） ⊙しない ○する
通信中転送 ⊙しない ○する
三者通話 ⊙しない ○する
着信転送 ○しない ⊙する

4 ［設定］ボタンをクリックします。

5 ［アナログ設定］→［ダイヤルイン］をクリックし、［アナログ設定（ダイヤルイン）］画面を開きます。

6 着信転送を契約した契約者回線番号またはダイヤルイン番号を登録します。

7 番号を登録した［ダイヤルイン登録番号］の［着信転送］で、転送するかどうかを選びます。

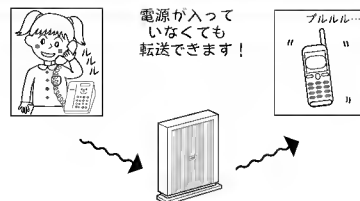
8 ［着信転送番号］に、転送先の電話番号を入力します。
※サブアドレス付きの電話番号には、転送できません。

9 ［設定］ボタンをクリックします。

◇制限事項
- 擬似着信転送機能を使用する設定にしているときは、着信転送を利用できません。
- サブアドレスが設定されている電話番号には、転送できません。

INSボイスワープサービス / マジックボックスを利用できます

INSボイスワープサービスはこんな活躍をします！

電話がかかってくると、登録した番号に転送します。電話機や本製品の電源を切っているときでも自動的に転送されます。

INSボイスワープセレクトサービスはこんな活躍をします！

特定の相手からの電話だけを、登録した番号に転送します。電話機や本製品の電源を切っているときでも自動的に転送されます。

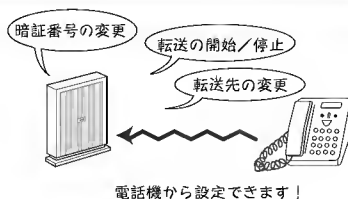
マジックボックスはこんな活躍をします！

マジックボックスには、次の4つの機能があります。

話中時録音：話し中にかかってきた電話をセンタに録音して、後で聞くことができます。
不在時録音：留守中にかかってきた電話をセンタに録音して、外出先から聞くことができます。
不在時転送：外出中にかかってきた電話を、あらかじめ登録しておいた電話番号に転送できます。
キャッチホン：話し中にかかってきた他の電話を受けられます。

※キャッチホンを利用する場合の設定方法は、キャッチホン（コールウェイティング）を利用する場合と同じです。☞「キャッチホン（コールウェイティング）を利用する」〈P.124〉

本製品を利用するとさらに便利です！

サービスの開始や停止だけでなく、転送先の変更やリモートコントロール機能の暗証番号の変更などを電話機で操作できます。

※本製品はスティミュラスプロトコル手順をサポートしていますので、次の設定を電話機から直接行うことができます。

INSボイスワープサービス/INSボイスワープセレクトサービス

- 転送サービスの開始（転送方法の選択）・停止
- 転送先電話番号の登録
- 転送先リストの指定（転送先の選択）
- 無応答時の転送の起動時間（転送待ち時間）の設定
- リモートコントロール機能の設定（暗証番号の設定）
- 転送トーキの設定
- 転送元電話番号通知の設定
- 発信者の電話番号の設定（INSボイスワープセレクトサービスのみ）
- 発信者の選択方法の設定（INSボイスワープセレクトサービスのみ）

マジックボックス

- サービスの開始・停止
- 転送先電話番号の登録
- 転送先リストの指定（転送先の選択）
- メッセージの再生・消去

※INSボイスワープサービス/INSボイスワープセレクトサービスやマジックボックスについて詳しくは、最寄りのNTTまでお問い合わせください。

INSボイスワープサービス/INSボイスワープセレクトサービス（有料）
マジックボックス（有料）
発信者番号通知サービス（無料）

※NTTとの契約が必要です（発信者番号通知サービスは、ダイヤルインサービスを契約している場合のみ）。各サービスの内容について詳しくは、最寄りのNTTまでお問い合わせください。なお、マジックボックスとINSボイスワープサービス/INSボイスワープセレクトサービス、およびマジックボックスとフレックスホンのINSキャッチホン（コールウェイティング）を同時に契約することはできません。

使用するポートと番号を指定しましょう（ダイヤルインサービスやi・ナンバーを契約しているときのみ）

ダイヤルインサービスやi・ナンバーを契約しているときは、INSボイスワープサービス/INSボイスワープセレクトサービスおよびマジックボックスを契約した電話番号を登録し、ポートごとの設定画面で発信者番号を指定します。

1 INSボイスワープサービス/INSボイスワープセレクトサービスおよびマジックボックスを契約した電話番号を、ダイヤルイン登録番号0～3のいずれかに登録します。

☞ 「電話番号を登録しましょう」〈P.101〉

2 ［アナログ設定］→［ポートごと］をクリックし、［アナログ設定（ポートごと）］画面を開きます。

3 転送先電話番号の登録やリモートコントロール機能の設定を行う電話機を、どのポートにつないでいるか確認します。

そのポートの［発信者番号］欄で、INSボイスワープサービス/INSボイスワープセレクトサービス/マジックボックスサービスを契約した番号の登録先を選択します。次の中から選びます。

ダイヤルイン登録番号0：各サービスを契約した番号が「ダイヤルイン登録番号0（契約者回線番号)」に登録されている場合に選びます。

※「契約者回線番号」は選択しないでください。

ダイヤルイン登録番号1/2/3：各サービスを契約した番号が「ダイヤルイン登録番号1」～「ダイヤルイン登録番号3」のいずれかに登録されている場合、該当する番号を選びます。

4 ［設定］ボタンをクリックします。

以降は、設定を行ったポートにつないだ電話機を使って、転送先電話番号の登録やリモートコントロール機能の設定などの操作を行ってください。操作方法については、最寄りのNTTまでお問い合わせください。

> **StepUp!**
>
> ◇設定が完了するまでに必要な時間
>
> 次の設定をするときは、最後のダイヤルを押してから設定が完了するまでに数秒かかります。すぐに設定を完了させたいときは、設定内容の最後に［#］ボタンを押してください。
>
> ・［転送先電話番号の登録］で登録する番号が入力最大桁数未満のとき
>
> ・［無応答時の転送の起動時間（転送待ち時間）の設定］でパターン番号0～9を選択したとき
>
> (入力最大桁数などについて詳しくは、NTTまでお問い合わせください。)
>
> ※最後のダイヤルを押してから設定が完了するまでの待ち時間を変更できます。また、設定内容の最後に押すボタンを［＊］ボタンに変更できます。
>
> ☞ 「［#］［＊］ボタンの機能を設定するには」〈P.103〉

迷惑電話おことわりサービスを利用できます

迷惑電話おことわりサービスはこんな活躍をします！

迷惑電話を受けたときに登録操作を行うと、以降、登録した電話番号からは電話がかかってきません。迷惑電話の相手には、INSネット64が自動的にメッセージで応答します。

迷惑電話の登録・解除は、電話機から操作できます。

本製品を利用するとさらに便利です！

迷惑電話の登録は、通常、自分から電話を切った後に行います。さらに本製品では、相手が先に電話を切ったときや、相手と話している最中にも登録できます。

- フレックスホンによる保留があるときは、迷惑電話を登録できません。
- 相手側の交換機の種類によっては、迷惑電話の登録ができないことがあります。
- 迷惑電話おことわりサービスについて詳しくは、最寄りのNTTまでお問い合わせください。

契約 NTT

迷惑電話おことわりサービス（有料）
発信者番号通知サービス（無料）
※NTTとの契約が必要です（発信者番号通知サービスは、ダイヤルインサービスを契約している場合のみ）。各サービスの内容について詳しくは、最寄りのNTTまでお問い合わせください。

使用するポートと番号を指定しましょう（ダイヤルインサービスやi・ナンバーを契約しているときのみ）

迷惑電話おことわりサービスを契約した電話番号を登録し、ポートごとの画面で発信者番号を指定します。

1 迷惑電話おことわりサービスを契約した番号を、ダイヤルイン登録番号0〜3に登録します。

☞「電話番号を登録しましょう」〈P.97〉

2 ［アナログ設定］→［ポートごと］をクリックし、［アナログ設定（ポートごと）］画面を開きます。

3 電話番号の登録を行う電話機を、どのポートにつないでいるか確認します。

そのポートの［発信者番号］欄で、迷惑電話おことわりサービスを契約した番号を選択します。次の中から選びます。

ダイヤルイン登録番号0：迷惑電話おことわりサービスを契約した番号が「ダイヤルイン登録番号0（契約者回線番号）」に登録されている場合に選びます。

※「契約者回線番号」は選択しないでください。

ダイヤルイン登録番号1/2/3：迷惑電話おことわりサービスを契約した番号が「ダイヤルイン登録番号1」〜「ダイヤルイン登録番号3」のいずれかに登録されている場合、該当する番号を選びます。

4 ［設定］ボタンをクリックします。

以降は、設定を行ったポートにつないだ電話機を使って、迷惑電話の登録・解除の操作を行えます。

迷惑電話を登録しましょう

本製品では、次のときに迷惑電話を登録できます。それぞれの方法について解説します。

- 自分から電話を切ったとき
- 相手が先に電話を切ったとき
- 相手と話しているとき

❶ 自分から電話を切ったとき

1 迷惑電話を受けた後、自分から受話器を置いて電話を切ります。

2 受話器を上げて、「1442」に電話をかけます。

登録に成功すると「登録を完了しました」という音声ガイダンスが流れます。

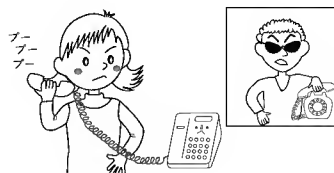
※電話を切ってから60秒以内に操作してください。60秒を超えると、登録できません。

※60秒以内に2回以上電話がかかってきた場合、すべて迷惑電話として登録できません。

3 受話器を置きます。

❷ 相手が先に電話を切ったとき

1 迷惑電話の相手が先に電話を切ります。

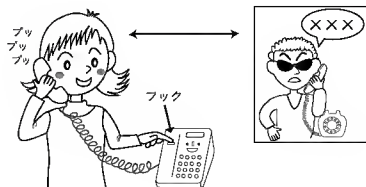
“プープープー”と聞こえます。

2 「1442」とダイヤルし、発信します。

登録に成功すると“ピー”、失敗すると“ブブブ”と聞こえます。

3 受話器を置きます。

❸ 相手と話しているとき

1 迷惑電話の相手と通話中に、フックを1回押します。(☞「フック操作について」〈P.99〉)

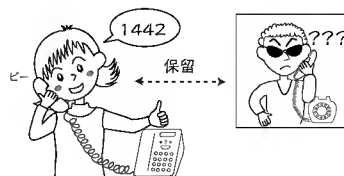
“プッププッ”と聞こえます。

2 [#] ボタンを押します。

無音になります。

3 もう一度 [#] ボタンを押します。

4 「1442」とダイヤルし、発信します。

登録に成功すると“ピー”、失敗すると“ブブブ”と聞こえます。

※登録の操作をしている間に相手が電話を切った場合は、音声ガイダンスによって登録が成功したかどうかが分かります。

5 迷惑電話の相手との通話に戻ります。

※登録の操作をしている間に相手が電話を切った場合は、そのまま受話器を置き、続けて「自分から電話を切ったとき」〈P.137〉の手順 2 以降の操作をしてください。

迷惑電話に登録した番号を解除するときは

この操作をすると、登録されている電話番号がすべて解除されます。電話番号を個別に解除することはできません。

1 受話器を上げて、「1449」に電話をかけます。

解除に成功すると「登録されている電話番号をすべて解除しました」という音声ガイダンスが流れます。

2 受話器を置きます。

INS ネット 64 付加サービス（有料）

なりわけサービスを利用できます

なりわけサービスはこんな活躍をします！

登録した電話番号からの電話を呼び出し音で聞き分けられます。

なりわけサービス（有料）
発信者番号通知サービス（無料）
※NTTとの契約が必要です（発信者番号通知サービスは、ダイヤルインサービスを契約している場合のみ）。各サービスの内容について詳しくは、最寄りのNTTまでお問い合わせください。

本製品を利用するとさらに便利です！

なりわけする電話番号を登録することができます。
なりわけサービスについて詳しくは、最寄りのNTTまでお問い合わせください。

使用するポートと番号を指定しましょう（ダイヤルインサービスやi・ナンバーを契約しているときのみ）

なりわけサービスを契約した電話番号を登録し、ポートごとの画面で発信者番号を指定します。

1 なりわけサービスを契約した電話番号を、ダイヤルイン登録番号0〜3のいずれかに登録します。

☞「電話番号を登録しましょう」〈P.101〉

2 ［アナログ設定］→［ポートごと］をクリックし、［アナログ設定（ポートごと）］画面を開きます。

3 電話番号の登録を行う電話機を、どのポートにつないでいるか確認します。

そのポートの［発信者番号］欄で、なりわけサービスを契約した番号を選択します。次の中から選びます。

ダイヤルイン登録番号0：なりわけサービスを契約した番号が「ダイヤルイン登録番号0（契約者回線番号）」に登録されている場合に選びます。

※「契約者回線番号」は選択しないでください。

ダイヤルイン登録番号1/2/3：なりわけサービスを契約した番号が「ダイヤルイン登録番号1」〜「ダイヤルイン登録番号3」のいずれかに登録されている場合、該当する番号を選びます。

4 ［設定］ボタンをクリックします。

以降は、設定を行ったポートにつないだ電話機を使って、なりわけしたい電話番号の登録・解除の操作を行えます。
操作方法については、最寄りのNTTまでお問い合わせください。

STEP 10 付録

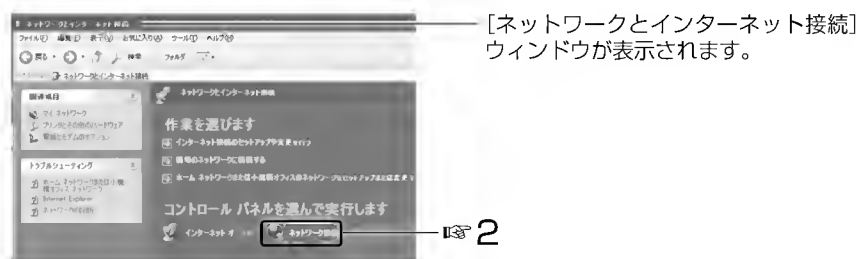
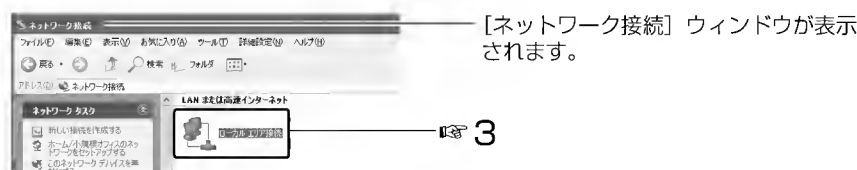
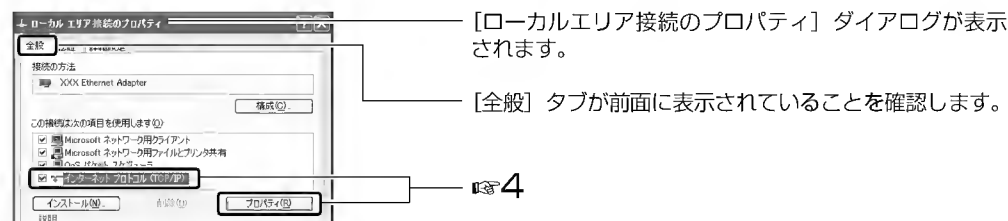
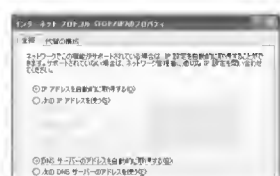
必要に応じてお読みください。

本製品の設定は変更していないのに、設定ページが開かないとき

設定ページを開くことができないときの対策について解説します。

❶ IPアドレスを取得する設定になっているかどうか確認します

※ここでは、Windows XPのダイアログを例に解説します。ほかのOSは「パソコンの準備をしましょう」〈P.21〉を参照してください。

1 [スタート] → [コントロールパネル] を選択し、[ネットワークとインターネット接続] をクリックします。

2 [ネットワーク接続] をクリックします。

3 [ローカルエリア接続] を右クリックして、メニューから [プロパティ] を選択します。

4 [インターネットプロトコル (TCP/IP)] を選択して、[プロパティ] ボタンをクリックし、[IPアドレスを自動的に取得する] が選択されているか確認してください。選択されていないときは選択してください。

5 [OK] ボタンをクリックして、パソコンを再起動します。

❷ IPアドレスが正しく取得されているか確認します

※ここでは、Windows XPのダイアログを例に解説します。ほかのOSの操作方法については、「Windows XP以外で、割り当てられたIPアドレスを確認するには」〈P.144〉を参照してください。

1 ［スタート］－［コントロールパネル］を選択し、［ネットワークとインターネット接続］をクリックします。

［ネットワークとインターネット接続］ウィンドウが表示されます。

2 ［ネットワーク接続］をクリックします。

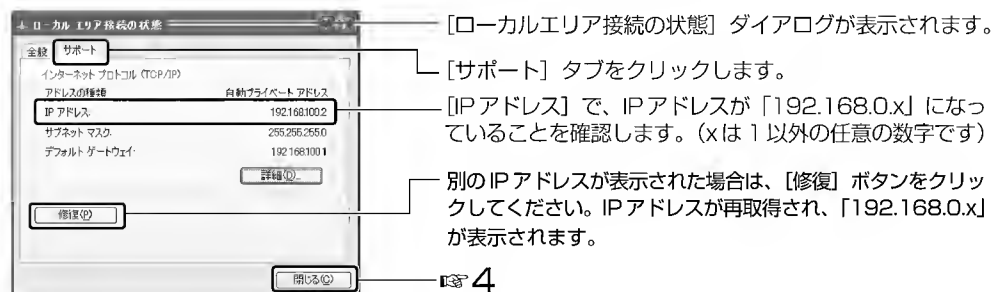
［ネットワーク接続］ウィンドウが表示されます。

3 ［ローカルエリア接続］を右クリックして、メニューから［状態］を選択します。

［ローカルエリア接続の状態］ダイアログが表示されます。

［サポート］タブをクリックします。

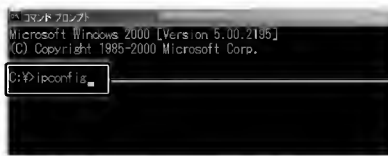
［IPアドレス］で、IPアドレスが「192.168.0.x」になっていることを確認します。（xは1以外の任意の数字です）

別のIPアドレスが表示された場合は、［修復］ボタンをクリックしてください。IPアドレスが再取得され、「192.168.0.x」が表示されます。

4 ［閉じる］ボタンをクリックします。

◇Windows XP以外で、割り当てられたIPアドレスを確認するには

- Windows 2000のとき

（1）［スタート］－［プログラム］－［アクセサリ］－［コマンドプロンプト］を実行します。

```
コマンド プロンプト
Microsoft Windows 2000 [Version 5.00.2195]
(C) Copyright 1985-2000 Microsoft Corp.

C:¥>ipconfig_
```

［コマンドプロンプト］の画面が表示されます。

(2)「C:¥>」に続けて、「ipconfig」と入力し、キーボードの［Enter］キーを押します。

```
コマンド プロンプト
Microsoft Windows 2000 [Version 5.00.2195]
(C) Copyright 1985-2000 Microsoft Corp.

C:¥>ipconfig

Windows 2000 IP Configuration

Ethernet adapter ローカル エリア接続:

        IP Address. . . . . . . . . . . . : 192.168.0.2
        Default Gateway . . . . . . . . . : 192.168.0.1

C:¥>_
```

同じ画面に、［Ethernet　adapter ローカル エリア接続：］の情報が表示されます。

(3)［IP Address］の項目で、IPアドレスが「192.168.0.x」になっていることを確認します（xは1以外の任意の数字です）。

別のIPアドレスが表示された場合は、「C:¥>」に続け「ipconfig /release」と入力し、［Enter］キーを押します。さらに「ipconfig　/renew」と入力し、［Enter］キーを押すと正しいIPアドレスが取得されます。

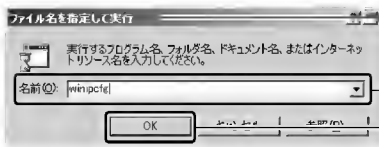
```
コマンド プロンプト
Microsoft Windows 2000 [Version 5.00.2195]
(C) Copyright 1985-2000 Microsoft Corp.

C:¥>ipconfig

Windows 2000 IP Configuration

Ethernet adapter ローカル エリア接続:

        Connection-specific DNS Suffix  . :
        IP Address. . . . . . . . . . . . : 192.168.0.2
        Subnet Mask . . . . . . . . . . . : 255.255.255.0
        Default Gateway . . . . . . . . . : 192.188.0.1

C:¥>exit_
```

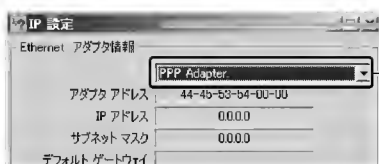
(4) コマンドプロンプトの画面を閉じます。

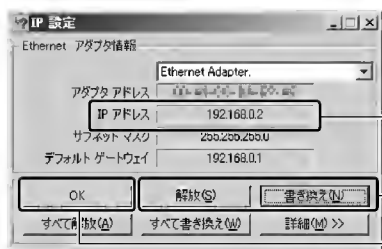
「C:¥>」に続けて、「exit」と入力します。［Enter］キーを押すと、この画面が閉じます。

- Windows 98 SE/Meのとき

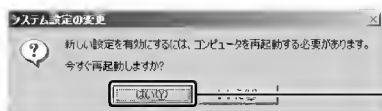
パソコンの電源がONになっている場合は、いったんWindowsを終了し、パソコンの電源をOFFにしてから、再度電源をONにして、下記の作業をしてください。

(1)［スタート］から［ファイル名を指定して実行］をクリックします。

［ファイル名を指定して実行］ウィンドウが表示されます。

(2)［名前］欄に「winipcfg」と入力し、［OK］ボタンをクリックします。

［IP設定］ウィンドウが表示されます。

(3) ▼ ボタンをクリックします。
表示されたリストから、お使いのLANカード／ボードを選択します。

(4) IPアドレスが「192.168.0.x」になっていることを確認します（xは1以外の任意の数字です）。

別のIPアドレスが表示された場合は、［解放］ボタンをクリックしてから、［書き換え］ボタンをクリックし、IPアドレスが「192.168.0.x」になることを確認します。

(5) ［OK］ボタンをクリックします。

(6) 再起動を促すメッセージが表示された場合は、［はい］ボタンをクリックして、再起動します。

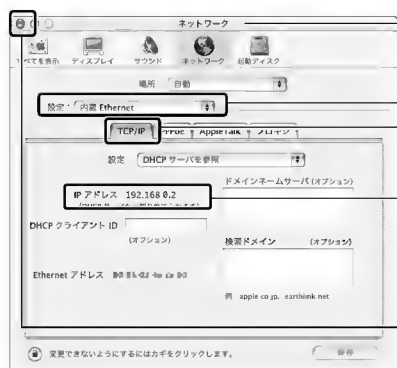
• MacOS Xのとき

※表示される項目名は、Mac OS Xのバージョンによって異なります。

(1)アップルメニューから［システム環境設定］を選択します。

［システム環境設定］ウィンドウが表示されます。

(2) ［ネットワーク］アイコンをクリックします。

※ここに［ネットワーク］アイコンがない場合は、［すべてを表示］アイコンをクリックします。

［ネットワーク］ウィンドウが表示されます。

(3) ［設定］で、［(内蔵) Ethernet］を選択します。

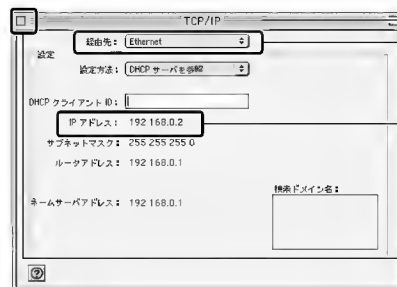
(4) ［TCP/IP］タブをクリックし、［IPアドレス］に表示されているIPアドレスが「192.168.0.x」になっていることを確認します（xは1以外の任意の数字です）。

別のIPアドレスが表示された場合は、Macintoshを再起動してください。正しいIPアドレスが自動取得されます。

(5) クローズボタンをクリックして、ウィンドウを閉じます。

• MacOS 9のとき

※表示される項目名は、Mac OS 9のバージョンによって異なります。

(1)アップルメニューから［コントロールパネル］の［TCP/IP］を選択します。

［TCP/IP］ウィンドウが表示されます。

(2) ［経由先］で［Ethernet］を選択し、［IPアドレス］に表示されているIPアドレスが「192.168.0.x」になっていることを確認します（xは1以外の任意の数字です）。

別のIPアドレスが表示された場合は、Macintoshを再起動してください。正しいIPアドレスが自動取得されます。

(3) クローズボックスをクリックして、ウィンドウを閉じます。

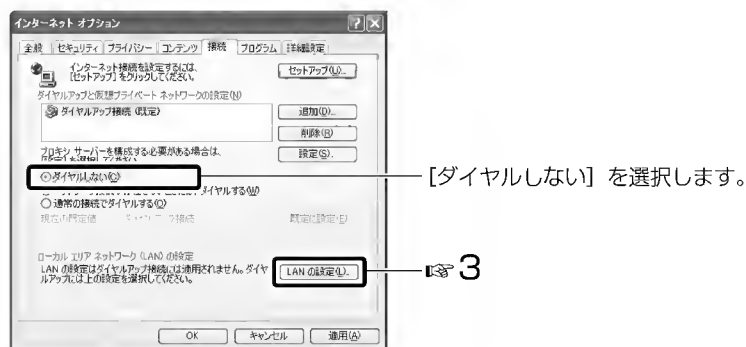
❸ Webブラウザの設定を確認します

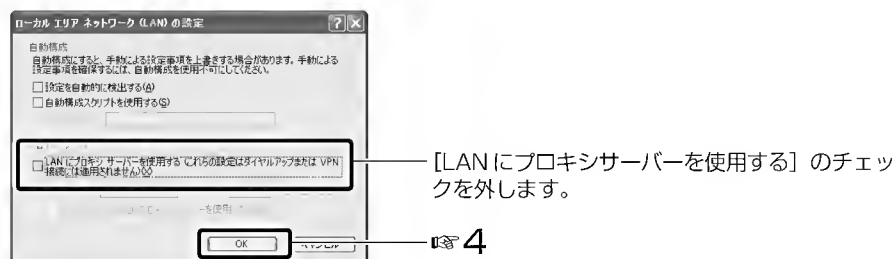
※ここでは、WebブラウザとしてInternet Explorer 6を使用する場合の操作方法と設定内容を解説します。Internet Explorer 6以外のWebブラウザを使用する場合は、そのWebブラウザで同様の操作・設定を行ってください。

1 Webブラウザを起動し、[ツール] メニュー→ [インターネットオプション] を選択します。

[インターネットオプション] ダイアログが表示されます。

2 [接続] タブをクリックします。

[ダイヤルアップと仮想プライベートネットワークの設定] に、接続が追加されている場合は、[ダイヤルしない] を選択します。

3 [LANの設定] ボタンをクリックします。

[ローカルエリアネットワーク (LAN) の設定] ダイアログの [プロキシサーバー] で、[LANにプロキシサーバーを使用する] のチェックを外します。

4 [OK] ボタンをクリックして、ダイアログを閉じます。

5 Webブラウザを起動し、「http:// 192.168.0.1/」と入力し、[Enter] キーを押します。

本製品の設定ページが表示されます。

それでも、設定ページが表示されない場合は、次の手順に進んでください。

❹ pingを入力して、パソコンと本製品が通信しているか確認してみます

1 ［スタート］メニュー→［すべてのプログラム］→［アクセサリ］→［コマンドプロンプト］を選択して、MS-DOSコマンドプロンプトの画面を開きます。

※Windows2000：［スタート］メニュー→［プログラム］→［アクセサリ］→［コマンドプロンプト］
※Windows98/Me：［スタート］メニュー→［プログラム］→［MS-DOSプロンプト］
※MacOS X：［ターミナル］アプリケーション、Mac OS 9：フリーウェア等をお使いください。

```
コマンド プロンプト
Microsoft Windows XP [Version 5.1.2600]
(C) Copyright 1985-2001 Microsoft Corp.

C:¥Documents and Settings¥User>_
```

2 「>」のあとに、「ping 192.168.0.1」と入力します。（>の左側に表示されている文字は何でも構いません）

```
C:¥WINDOWS>ping 192.168.0.1
```

3 パソコンと本製品が正しく通信しているかどうかが、MS-DOSプロンプトの画面に表示されます。

・正しく通信しているとき

```
C:¥WINDOWS>ping 192.168.0.1
Reply from 192.168.0.1:bytes=32
time=8ms TTL=63
```

パソコンと本製品が正しく通信しているにもかかわらず設定ページが開けない場合、本製品の故障が考えられます。MNテクニカルセンタ〈P.162〉まで連絡してください。

・正しく通信していないとき

```
C:¥WINDOWS>ping 192.168.0.1
Request timed out
```

このように表示される場合は、次のことを確認してください。

●本製品のLANポートにLANケーブルを接続していますか？
間違ってISDNケーブルを接続していませんか？
本製品やLAN上のパソコンのLANポートに、LANケーブルが正しく接続されているか確認してください。
※ LANケーブルが正しく接続されているかどうかは、本体前面のランプ（LAN<緑>）で確認できます。
点灯していないときはMNテクニカルセンタ〈P.162〉まで連絡してください。
点灯している場合は、Webブラウザのアドレス欄に「http://192.168.0.1/」と入力し、［Enter］キーを押して、設定ページを開いてください。それでも、設定ページが表示されない場合は、次の手順に進んでください。

4 本体前面のランプ（LAN<緑>）に注目しながら、MS-DOSプロンプトの画面で「ping 192.168.0.1」と入力し、［Enter］キーを押します。

・ランプが点滅したとき
本製品と正しくIP通信を行っています。この場合は、次の手順に進んでください。
・ランプが点灯したままのとき（点滅しないとき）
本製品と正しくIP通信を行っていません。ケーブルの断線、本製品またはパソコンの故障などが考えられます。MNテクニカルセンタ〈P.162〉まで連絡してください。

5 ランプが点滅したのに、pingを入力しても正しく通信されていないときは、ルータ機能の設定を購入時の状態に戻してください。「ルータ機能の設定を購入したときの状態に戻すには」〈P.156〉を参照してください。そのあと、もう一度手順1から操作をやり直してください。

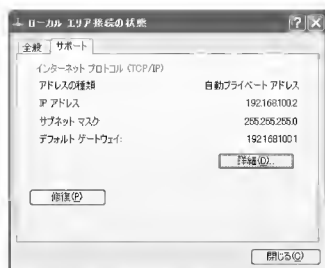
本製品のIPアドレスを変更したら、設定ページが開かなくなったとき

設定ページのURLを確認してください

1 本製品のIPアドレスを変更した場合は、「http://」のあとに、本製品に割り当てたIPアドレスを入力します。例えば「192.168.100.1」を割り当てた場合は、「http://192.168.100.1」と入力する必要があります。

それでも開かない場合は、次へ進んでください。

パソコンに正しいIPアドレスが割り当てられているか確認してください

1 「❷ IPアドレスが正しく取得されているか確認します」〈P.143〉と同じ方法で、パソコンのIPアドレスを確認します。

2 パソコンに設定されているIPアドレスが正しいかどうか確認します。

※設定されているIPアドレスは、本製品と同じサブネットのIPアドレスでなければなりません。

※本製品のDHCPサーバ機能を使用せず、複数のパソコンにIPアドレスを手動で設定するときは、それぞれのパソコンで重ならないように設定しているかどうか確認してください。

3 本製品のDHCP機能を使用してIPアドレスを取得する場合は、「❷ IPアドレスが正しく取得されているか確認します」〈P.143〉に従って、IPアドレスを取得し直してください。

※本製品のDHCPサーバ機能を使用せず、手動でIPアドレスを指定する場合は、本製品に割り当てたIPアドレスと同じサブネットワークアドレスの範囲で正しく設定し直してください。

それでも開かない場合は、次へ進んでください。

DHCPサーバ機能が正しく設定されていない可能性があります

1 本製品のIPアドレスを変更した場合で、本製品のDHCPサーバ機能を使用する場合、パソコンに割り当てるIPアドレスを、本製品のIPアドレスと同じサブネットワークアドレスの範囲内で指定しなければなりません。

DHCPサーバ機能の設定を正しく行わなかった場合、以下のどちらかの方法で対処してください。

(1) パソコン側のネットワークの設定画面で、手動でIPアドレスを設定してから設定ページを開いてください。(設定するIPアドレスは、本製品のIPアドレスと同じサブネットワークアドレスで指定してください)

(2) 「ルータ機能の設定を購入したときの状態に戻すには」〈P.156〉を参照して、設定を初期化してから、再度、初めから設定をやり直してください。

LAN上のパソコンによって意図しない自動接続が起こるときは

自動接続をしないように設定します

自動接続を行う設定にしている場合、Webブラウザで URL を指定するだけでISDN回線を介してプロバイダに接続され、課金されます。
自動接続を止めるときは、［詳細設定］→［自動接続相手先］で［なし］を選択してください。

ネットワークの設定や運用を確認します

ネットワークの設定内容、運用やパソコンにインストールされているソフトウェアの設定などによって、回線が長時間接続されていたり、意図しない自動接続が行われてしまうことがあります。次の点に注意してください。

◎ すでに稼働しているLANに本製品を導入するとき

すでに稼働しているLANに本製品を導入するときは、必ずLANと同じサブネットのIPアドレスを本製品に設定してください。本製品のIPアドレスを変更する方法について詳しくは、活用ガイド〜中・上級編「既存のLAN環境で使用する（2）本製品のIPアドレスを変更して導入する」（PDFファイル）を参照してください。

◎ 定期的に回線を接続して通信を行うソフトウェアを、LAN上のパソコンにインストールしているとき

LAN上のパソコンに、定期的に回線を接続して通信を行うソフトウェアをインストールしていると、意図しないときに回線が接続されることがあります。
Webブラウザなどの通信ソフトウェアを使用する際は、十分注意してください。特に「Microsoft Internet Explorer（Windows用）」をインストールしている場合は、次の点に注意してください。

- Active DesktopをWebページとして表示する際、［購読の更新方法］で「スケジュール」を選択している場合
  「Microsoft Internet Explorer」を起動しなくても、定期的にインターネットにアクセスします。本製品で自動接続を行う設定にしているときは、この定期的なアクセスによって自動的に回線が接続され、課金されてしまいます。
- ［お気に入り］にページを追加する際、「購読する」に設定している場合
  「Microsoft Internet Explorer」を起動すると、定期的にインターネットにアクセスします。本製品で自動接続を行う設定にしているときは、この定期的なアクセスによって自動的に回線が接続され、課金されてしまいます。
  「Microsoft Internet Explorer（Windows用）」のヘルプを参照してください。

◎ 接続している相手先が回線上で通信しているとき

接続している相手先の通信状態によっては、自動切断タイマを設定していても正しく回線が切断されないことがあります。

◎ リモートアクセスされているとき

接続している相手先の通信状態によっては、自動切断タイマを設定していても正しく回線が切断されないことがあります。

接続状況をこまめに確認してください

本製品を設置したあとは、必ず設定ページ［切断／接続状況］の画面、［情報表示（通信料金）］画面、あるいは本体前面のランプを確認してください。
意図しない自動接続が行われている場合は、次ページの操作を行ってください。

接続制限機能を設定します

詳細設定ページの接続/相手先登録の画面で、自動接続制限機能を設定すると、自動接続する時間帯を制限したり、一定回数や一定料金を超える自動接続を制限したりすることができます。

意図しない自動接続が起きないようにするには

❶ 自動接続の原因となる通信を行っているパソコンを限定する

1 WWWブラウザを起動し、本製品の設定ページを開きます。

2 メニューから［詳細設定］→［情報表示］→［接続/切断ログ］を選択します。

［情報表示（接続/切断ログ）］画面が表示されます。

3 「ルータ発信」という項目で、「トリガパケット」という文字が入っているログを探します。

この例では、「192.168.0.3のパソコンが、172 16.0.129のパソコンにUDP（ntp）の通信を行おうとして自動接続が起きた」ということを表しています。
この場合、192.168.0.3のパソコンの設定を確認してください。

```
ルータ(自動)発信[B1]:番号[0312345678]トリガパケット[UDP
192.168.0.3/ntp--> 172.16.0.129/ntp]
```

「トリガパケット[XX　XXX.XXX.XXX.XXX　/XX-->」のXXX.XXX.XXX.XXXのIPアドレスを設定されているパソコンが、自動接続の原因となる通信を行っています。

❷ 限定されたパソコンが通信を行わないようにフィルタを設定する

1 Webブラウザを起動し、本製品の設定ページを開きます。

2 メニューから［詳細設定］→［ルータ設定］→［LAN］をクリックします。

3 ［IPフィルタ登録］コマンドをオプション欄に入力します。

この例は、192.168.0.3のパソコンが、172.16.0.129のパソコンにUDP（ntp）の通信を行おうとして自動接続が起きている場合に設定するフィルタです。

```
ip filter 1 restrict out 192.168.0.3 * udp ntp ntp remote *
```

※フィルタについて詳しくは、活用ガイド～中・上級編「IPフィルタを設定する」（PDF）を参照してください。

4 ［設定］ボタンをクリックします。

そのほかのトラブル

※トラブルの解決方法は、活用ガイド（PDFファイル）にも記載されています。ここに記載されていない場合は参照してください。

本製品全体

◎本製品の電源をONにしたとき、B1とB2のランプが同時に点滅している

→ブロードバンドだけを利用するときなどISDN回線を利用しないときは、必ずB1とB2のランプが同時に点滅し、一定時間後に消えます。本製品に異常はありません。

→ISDN回線を利用するときにB1とB2ランプが同時に点滅するときは、正しく回線に接続されていないことを示します。「本製品を設置しましょう」〈P.27〉を参照しながら次の点を確認してください。

→本製品のDSUを使う場合、ISDN（U点）ケーブルが抜けていないか確認してください。

→ほかのDSUを使う場合（本製品のDSUを使わない場合）、ISDN（S/T点）ケーブルが抜けていないか確認してください。

→ケーブルの接続が間違っていないか確認してください。

→終端抵抗（TERM）が正しく設定されているか確認してください。

→DSUスイッチ（DSU ON/OFF）が2つとも正しく設定されているか確認してください。

→上記以外の場合は、MNテクニカルセンタまでご連絡ください。〈P.162〉

◎[情報表示（通信料金）] 画面の内容と実際に請求された金額が違う

→通信料金に小数点以下の端数がある場合は、ISDN回線網から切り上げて通知されるため、[通信料金] 画面に正しい通信料金が表示されません。

→次の場合は、ISDN回線網から料金情報が通知されないため、[通信料金] 画面に正しい通信料金が表示されません。ご注意ください。

・NTT東日本／NTT西日本以外の電話会社を利用した場合

・各電話会社の料金割引サービスを利用した場合

・PHS電話機に発信した場合

・PHS電話機を利用した機器にPIAFSで発信した場合

・PHS電話機を利用した機器からのアクセスを受信した際に、本製品からコールバックした場合

・PHS電話機を利用した機器からのアクセスを受信した際に、本製品からコールバックした場合

・WANポートを使ってプロバイダに接続した場合

・FOMA/PHS/モデムの対応PCカードを使用して発信した場合

◎本製品の設定ができない/通信できない

→本製品の電源がONになっていることを確認してください。〈P.31〉

→本製品とLAN上のパソコンが正しく接続されていることを確認してください。〈P.29〉

→パソコンのTCP/IP関連の設定は正しいですか？〈P.22〉

→設定ページで設定するときにエラーが表示されていませんか？〈P.159〉

→設定ページは表示できますか？

お使いのWebブラウザのバージョンを確認してください。バージョンによっては、設定ページを表示できないことがあります。〈P.20〉

また、Webブラウザの［オプション］メニューなどで、「プロキシサーバ（あるいはプロクシ）を使用しない」ように設定してください。〈P.20〉

上記の設定を行っても設定ページを表示できない場合は、ルータ機能に関する設定を消去してください。ルータ機能に関する設定の消去について詳しくは、「ルータ機能の設定を購入したときの状態に戻すには」〈P.156〉を参照してください。それでも表示できない場合は、MNテクニカルセンタ〈P.162〉までご連絡ください。

→ISDN回線を利用する場合に、本製品の電源をONにしたとき、B1とB2のランプが同時に点滅していませんか？

点滅するときは、「本製品の電源をONにしたとき、B1とB2のランプが同時に点滅している」（上記）を参照してください。

→[情報表示（接続／切断ログ）] 画面を確認してください。履歴は表示されていますか？

エラーが表示されるときは、「設定ページのエラー一覧」を参照して対処してください。エラーや履歴が表示されないときは、以下を参照して対処してください。

ルータ機能（LAN）

◎プロバイダに接続できない

→プロバイダとの契約が済んでいない場合や、工事が完了していない場合は接続できません。

→送信ユーザID・送信パスワードが間違っていないか確認してください。送信パスワードは、大文字・小文字が区別されます。正しく入力し直してください。

→ブロードバンドを利用してPPPoE接続する場合、送信パスワードには「xxxx@xxxx.ne.jp」などの形式で入力してください。

→パソコンのTCP/IP関連の設定は正しいですか？

詳細設定ページ［接続/相手先登録］画面の［DNSサーバアドレス］にプロバイダのDNSサーバアドレスが入力されていない場合は、入力してください。

→Webブラウザ、メールソフトなどの設定は正しく行っていますか？

→ISDN回線の場合、次の点を確認してください。

→プロバイダの電話番号が間違っていないか確認してください。

→本製品のDSUを使う場合、ISDN（U点）ケーブルが抜けていないか確認してください。〈P.28〉

→ほかのDSUを使う場合（本製品のDSUを使わない場合）、ISDN（S/T点）ケーブルが抜けていないか確認してください。〈P.28〉

→ISDN回線のBチャネルは空いていますか？

→プロバイダなど、相手先のISDN回線のBチャネルが空いていない（通信中）かもしれません。

しばらく時間を置いてから、再度接続してください。

10

付録

→詳細設定ページ［情報表示（接続／切断ログ）］画面を確認してください。

エラーが表示されているときは、「設定ページのエラー」〈P.159〉を参照して対処してください。

→アクセスポイントの回線速度を確認してください。本製品が接続できるのは、同期64Kbps、同期128Kbps、PIAFS 32Kbps、PIAFS 64Kbps、PIAFS Ver2.1です。

詳細設定ページ［接続／相手先登録］画面の［相手先電話番号］で、その回線速度に対応している電話番号を設定していますか？

→ISDN回線を利用している場合、発信は、3分間に3回だけ可能です。3分経過してから、もう一度発信してください。

◎ブロードバンド接続ができない

→「情報表示（接続/切断ログ）」画面を確認してください。履歴は表示されていますか？

エラーが表示されるときは、「設定ページのエラー」〈P.159〉を参照して対処してください。エラーや履歴が表示されないときは、以下を参照して対処してください。

→「接続／相手先登録」画面の「送信ユーザID」が正しいか確認してください。

→「接続／相手先登録」画面の「送信パスワード」が正しいか確認してください。

→「接続／相手先登録」画面の「認証プロトコル」が正しいか確認してください。

→「接続／相手先登録」画面の「暗号化」が正しいか確認してください。

→ブロードバンド接続には、「PPPoE（端末型）」「PPPoE（LAN型）」「DHCP」「Static」の異なる設定方法があります。プロバイダの契約（接続形態）と設定している画面が一致していますか？

→本製品前面のWANのランプを確認してください。

点灯していない場合は、ケーブルが外れているか、ケーブルが切断されている場合があります。

→PPPoEランプを確認してください。

クイック設定でPPPoEを設定した場合、もしくは詳細設定で通信チャネルを「PPPoE（ランプ点灯）」で設定した場合は、PPPoEランプが点灯します。点灯しない場合は「送信ユーザID」「送信パスワード」などの設定を再確認してください

→プロバイダの工事は終了していますか？

契約を申し込んでから、工事が完了するまで日数がかかる場合があります。申し込んだプロバイダに確認してください。

→クイック設定をしたあと、別のクイック設定をしませんでしたか？

「クイック設定」ページの［PPPoE（端末型）］、［PPPoE（LAN型）［DHCP］［Static］［端末型ダイヤルアップ］［フレッツ・ISDN］の各画面は、詳細設定ページの「接続/相手先登録」画面の各相手先番号と共通です。1つの画面で設定を変更すると、他の画面の設定も同じように変更されます。

◎自動接続できない

→詳細設定ページ［自動接続相手先］画面の相手先を変更しませんでしたか？

［自動接続相手先1］で、自動接続したい相手を選択してください。

→詳細設定ページ［接続／相手先登録］画面の［時間帯による制限］を［以下の時間帯のみ自動接続可能］に設定していませんか？

この場合、設定している開始時刻から終了時刻までの時間帯しか、自動接続できません。

→詳細設定ページ［情報表示（接続／切断ログ）］画面を確認してください。

エラーが表示されているときは、「設定ページのエラー」〈P.159〉を参照して対処してください。

→詳細設定ページ［情報表示（自動接続制限）］画面を確認してください。

［再接続制限］の欄に「禁止中」と表示されているときは、活用ガイド～初級編「自動接続制限状況を見る/制限を解除する」（PDFファイル）を参照して対処してください。

◎回線が切断されてしまう

→ISDN回線の端末型ダイヤルアップ接続では、一定時間アクセスがないと、本製品は自動的に回線を切断します。

出荷時の設定では、150秒間アクセスがないと回線が切断されます。自動切断までの時間を変更したいときは、詳細設定ページ［接続／相手先登録］の［自動切断タイマ1］の時間を変更してください。

→詳細設定ページ［接続／相手先登録］画面の［使用するタイマ］を「タイマ1、以下の時間帯のみタイマ2に変更」に設定し、［終了時刻で強制切断］をチェックしていませんか？

この場合、設定している終了時刻になると同時に、自動的に回線が切断されます。

→詳細設定ページ［接続／相手先登録］画面の［時間帯による制限］を［以下の時間帯のみ自動接続可能］に設定し、［終了時刻に強制切断］を［する］に設定していませんか？

この場合、設定している終了時刻になると同時に、自動的に回線が切断されます。

◎相手先の設定が勝手に変わってしまう

→クイック設定ページで設定した相手先は、［詳細設定］の［接続/相手先登録］に反映されます。反映先は、「クイック設定・詳細設定の対応表」〈P.44〉を参照してください。

クイック設定の［以下の内容で設定を行う］欄のチェックボックスの右側に、反映される相手先の番号が表示されているので、確認してください。また、「設定済」と表示されているときは、すでに設定が書き込まれていることを示しています。設定済みにも関わらず設定を行うと、あとから設定した方が有効になるので、ご注意ください。

◎FTPソフトでファイルの送受信ができない

→次のように、FTPソフトの設定を「PASVモード」に変更してください。

・Windows用　NextFTP（ver.1.91）の場合

［オプション］→［ファイヤーウォール（プロキシ）］タブで［PASVモード］をチェックします。

・Macintosh用　Fetch（ver.3.0.3J2）の場合

［初期設定］→［Firewall］で［パッシブモード転送（PASV）を使う］をチェックします。

アナログ機器

◎電話をかけたり、受けたりすることができない

→本製品の電源をONにしたときに、B1、B2のランプが同時に点滅していませんか?

点滅するときは、「本製品全体」の「本製品の電源をONにしたとき、B1とB2のランプが同時に点滅している」を参照してください。

→「ISDNサービスは申し込みましたか?」〈P.62〉の内容どおりにINSネット64の契約をしているか確認してください。

→本製品のDSUを使う場合、ISDN(U点)ケーブルが抜けていないか確認してください。〈巻頭ページ〉

→ほかのDSUを使う場合(本製品のDSUを使わない場合)、ISDN(S/T点)ケーブルが抜けていないか確認してください。〈P.28〉

→アナログ機器と本製品のTELポートが正しく接続されているか確認してください。〈P.29〉

→ISDNのBチャネルが2本とも使用されていませんか?

◎電話をかけることができない

→パルスダイヤル式の電話機などを使用していませんか?

アナログ機器はプッシュボタン式を使用し、その機器の切替スイッチを「PB」または「トーン」に設定してください。

◎電話を受けることができない

→着信ポートの設定内容を確認してください。(「ダイヤルイン登録番号ごとに着信ポートを設定する」〈P.104〉参照)

→サブアドレスの登録内容を確認してください。(「電話機とFAXを区別する番号を付けられます(サブアドレス)」〈P.112〉参照)

→グローバル着信の設定内容を確認してください。(「ダイヤルイン登録番号ごとに着信ポートを設定する」〈P.104〉参照)

◎呼び出し音が鳴らない

→着信ポートの設定内容を確認してください。(「ダイヤルイン登録番号ごとに着信ポートを設定する」〈P.104〉参照)

→サブアドレスの登録内容を確認してください。(「電話機とFAXを区別する番号を付けられます(サブアドレス)」〈P.112〉参照)

→ポート接続機器の設定が「サイレントFAX2」になっていませんか?(「TELポートの機器を指定する」〈P.93〉参照)

→外線呼び出し音の設定が「無鳴動着信」になっていませんか?(「電話の呼び出し音を変更する」〈P.105〉参照)

◎擬似キャッチホン機能(マルチアンサー)が使えない

→マルチアンサーを利用する設定になっていますか?(「通話中に他の電話を受けられます(擬似キャッチホン)」〈P.107〉参照)

→話中着信をする設定になっていますか?(「通話中に他の電話を受けられます(擬似キャッチホン)」〈P.107〉参照)

→ポート接続機器の設定が、「ファクシミリ」になっていませんか?(「TELポートの機器を設定する」〈P.93〉参照)

→ISDNのBチャネルをデータ通信で2本とも使用していませんか?

◎擬似着信転送機能が利用できない

→擬似着信転送をする設定になっていますか?(「かかってきた電話を転送できます(擬似着信転送)」〈P.111〉参照)

→ダイヤルインの設定は、着信転送する設定になっていますか?(「かかってきた電話を転送できます(擬似着信転送)」〈P.111〉参照)

→転送先の電話番号は正しいですか?(「かかってきた電話を転送できます(擬似着信転送)」〈P.111〉参照)

→ISDNのBチャネルを1本でも使用していませんか?擬似着信転送ができるのは、Bチャネルが2本とも空いているときだけです。

◎通話中発信機能が利用できない

→通話中発信をする設定になっていますか?(「通話中、他の相手に電話をかける(通話中発信)」〈P.109〉参照)

→通話中発信をするポートには電話機を接続していますか?

→通話している以外のチャネルを、別の通話やデータ通信で使用していませんか?

◎i・ナンバーを利用した鳴り分けができない

→i・ナンバーの契約(有料)をしましたか?

詳しくは最寄りのNTTまでお問い合わせください。

→i・ナンバーを利用する設定になっていますか?(「i・ナンバーを利用できます」〈P.121〉参照)

→カスタマイズモードで利用する設定にしている場合、着信ポートの設定を行っていますか?(「i・ナンバーを利用できます」〈P.121〉参照)

→3つの電話番号を使う場合、カスタマイズモードで利用する設定にしていますか?(「i・ナンバーを利用できます」〈P.121〉参照)

◎キャッチホン(コールウェイティング)ができない

→キャッチホン(コールウェイティング)の契約(有料)をしましたか?

詳しくは最寄りのNTTまでお問い合わせください。

→通信中着信通知サービスの契約(無料)をしましたか?

詳しくは最寄りのNTTまでお問い合わせください。

→キャッチホン(コールウェイティング)を利用する設定になっていますか?(「キャッチホン(コールウェイティング)を利用する」〈P.124〉参照)

→マルチアンサーを利用する設定になっていませんか?(「通話中に他の電話を受けられます(擬似キャッチホン)」〈P.107〉参照)

→通話中発信をする設定になっていませんか?(「通話中、他の相手に電話をかける(通話中発信)」〈P.109〉参照)

→話中着信をする設定になっていますか?(「キャッチホン(コールウェイティング)を利用する」〈P.124〉参照)

→ポート接続機器の設定が、「ファクシミリ」になっていませんか?(「TELポートの機器を指定する」〈P.93〉参照)

◎三者通話ができない

→三者通話の契約(有料)をしましたか?

詳しくは最寄りのNTTまでお問い合わせください。

→三者通話を利用する設定になっていますか?(「三者通話を利用する」〈P.126〉参照)

→マルチアンサーを利用する設定になっていませんか？（「通話中に他の電話を受けられます（擬似キャッチホン）」〈P.107〉参照）

→通話中発信をする設定になっていませんか？（「通話中、他の相手に電話をかける（通話中発信）」〈P.109〉参照）

◎通信中転送ができない

→通信中転送の契約（有料）をしましたか？
詳しくは最寄りのNTTまでお問い合わせください。

→通信中転送を利用する設定になっていますか？（「通信中転送を利用する」〈P.129〉参照）

→マルチアンサーを利用する設定になっていませんか？（「通話中に他の電話を受けられます（擬似キャッチホン）」〈P.107〉参照）

→通話中発信をする設定になっていませんか？（「通話中、他の相手に電話をかける（通話中発信）」〈P.109〉参照）

◎着信転送ができない

→着信転送の契約（有料）をしましたか？
詳しくは最寄りのNTTまでお問い合わせください。

→通信中着信通知サービスの契約（無料）をしましたか？
詳しくは最寄りのNTTまでお問い合わせください。

→着信転送を利用する設定になっていますか？（「着信転送を利用する」〈P.132〉参照）

→ダイヤルインの設定は、着信転送する設定になっていますか？（「着信転送を利用する」〈P.132〉参照）

→転送先の電話番号は正しいですか？（「着信転送を利用する」〈P.132〉参照）

→擬似着信転送をする設定になっていませんか？（「かかってきた電話を転送できます（擬似着信転送）」〈P.111〉参照）

◎INSボイスワープサービス/マジックボックスが利用できない

→INSボイスワープサービス/マジックボックスの契約（有料）をしましたか？
詳しくは最寄りのNTTまでお問い合わせください。

→ダイヤルイン契約をしている場合、発信者番号通知サービスの契約（無料）をしましたか？
詳しくは最寄りのNTTまでお問い合わせください。

→ダイヤルインまたはｉ・ナンバーの契約をしている場合、INSボイスワープサービス/マジックボックスの契約をした契約者回線番号およびダイヤルイン番号を登録しましたか？（「INSボイスワープサービス/マジックボックスを利用できます」〈P.133〉参照）

→ダイヤルインまたはｉ・ナンバーの契約をしている場合、カスタマコントロールの操作を行う電話機が接続されているポートの発信者番号を正しく設定しましたか？（「INSボイスワープサービス/マジックボックスを利用できます」〈P.133〉参照）

◎なりわけサービスが利用できない

→なりわけサービスの契約（有料）をしましたか？
詳しくは最寄りのNTTまでお問い合わせください。

→ダイヤルインの契約をしている場合、発信者番号通知サービスの契約（無料）をしましたか？
詳しくは最寄りのNTTまでお問い合わせください。

→ダイヤルインの契約をしている場合、なりわけサービスの契約をした契約者回線番号およびダイヤルイン番号を登録しましたか？（「なりわけサービスを利用できます」〈P.139〉参照）

→ダイヤルインの契約をしている場合、カスタマコントロールの操作を行う電話機が接続されているポートの発信者番号を正しく設定しましたか？（「なりわけサービスを利用できます」〈P.139〉参照）

◎迷惑電話おことわりサービスが利用できない

→迷惑電話おことわりサービスの契約（有料）をしましたか？
詳しくは最寄りのNTTまでお問い合わせください。

→ダイヤルインの契約をしている場合、発信者番号通知サービスの契約（無料）をしましたか？
詳しくは最寄りのNTTまでお問い合わせください。

→ダイヤルインの契約をしている場合、迷惑電話おことわりサービスの契約した契約者回線番号およびダイヤルイン番号を登録しましたか？（「迷惑電話おことわりサービスを利用できます」〈P.135〉参照）

→ダイヤルインの契約をしている場合、迷惑電話の登録・解除の操作を行う電話機が接続されているポートの発信者番号を正しく設定しましたか？（「迷惑電話おことわりサービスを利用できます」〈P.135〉参照）

→迷惑電話を受けた後、電話を切ってから60秒以内に登録の操作をしましたか？
60秒を過ぎると迷惑電話の登録はできません。

→60秒以内に2回以上電話がかかってきませんでしたか？
60秒以内に2回以上電話がかかってきた場合、すべて迷惑電話として登録できません。

◎設定が消えてしまう（保存できない）

→アナログ設定のページで設定を行った場合、設定値を入力後に［設定］ボタンをクリックして設定を保存していますか？

PCカード

◎無線LANカードを使って通信できない

→無線LANカードが本製品に正しく取り付けられていますか？〈P.72〉

→対応していない無線LANカードを使用していませんか？

→無線LANカードが本製品に認識されていますか？〈P.74〉

→本製品で無線LANカードを使用するための設定を、正しく行っていますか？〈P.75〉

→無線LANカードを装着したパソコンの設定を正しく行っていますか？
無線LANカードの取扱説明書を参照して、パソコン側の設定を行ってください。

→本製品側とパソコン側で、同じESS ID（SSID）を設定していますか？〈P.75〉

→本製品側と無線LANカードを装着したパソコンの間に、障害物はありませんか？
本製品とパソコンの間の距離を短くして、通信できるかどうか試してください。

→無線LANカードを使用している場合、暗号化する際に本製品側とパソコン側で、同じWEPキーを設定していますか？64bitキーの場合は、それぞれが設定した標準キーに対応する64bitキーの内容が一致していますか？

〈P.76〉

→本製品側とパソコン側で使用する無線LANカードは、相互接続が確認されたものを使用していますか？

詳しくはMN128-SOHOホームページ〈P.162〉で確認してください。

◎FOMA/PHS/モデムカードを使って通信できない

→本製品に対応していないFOMA/PHS/モデムカードを使用していませんか？

対応状況は「対応カードについて」〈P.85〉を参照してください。その他の機種で動作が確認された場合は、MN128-SOHOホームページ〈P.162〉に掲載します。MN128-SOHOホームページに掲載されていない機種を使用した場合、動作の保証はできません。

→FOMA/PHS/モデムカードが本製品に正しく取り付けられていますか？〈P.85〉

→FOMA/PHS/モデムカードが本製品に認識されていますか？〈P.74〉

→本製品でFOMA/PHS/モデムカードを使用するための設定を、正しく行っていますか？〈P.86〉

◎RS-232CシリアルポートのパソコンからATコマンドを入力できない

→本製品のRS-232Cシリアルポートにパソコンを接続する場合、シリアルケーブル（D-sub9pin メス-メス ストレート全結線ケーブル）が必要です。お買い求めください。

→パソコンのRS-232Cシリアルポートと本製品のRS-232Cシリアルポートが正しく接続されているか、確認してください。〈P.30〉

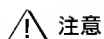
→ほかの通信ソフトを起動していませんか？

→使用していない通信ソフトを終了してください。

→本製品を接続しているパソコンのRS-232Cシリアルポートを、通信ソフトなどで正しく設定していますか？

→ターミナル画面を持つ通信ソフトを使用していますか？

ルータ機能の設定を購入したときの状態に戻すには

本製品のルータの機能を、購入したときの状態に戻します（初期化）。
本製品のIPアドレスも、購入時の設定「192.168.0.1」に戻ります。

⚠ 注意

以下の操作を行うと、設定内容がすべて購入時の状態に戻ります。
取り消すことはできませんので、ご注意ください。

ルータ機能の設定を購入したときの状態に戻す方法は、次の４種類あります。

(1) 初期化スイッチを使う
(2) LANポートのパソコンから、設定ページを使う（☞ 活用ガイド 初級編）
(3) TELポートの電話機から設定コードを使う（☞ リファレンス・ハンドブック）
(4) RS-232Cシリアルポートのパソコンから ATコマンドを使う（☞ リファレンス・ハンドブック）

ここでは（1）の方法を解説します。

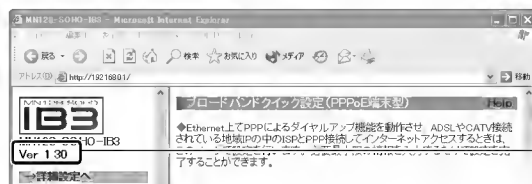
初期化スイッチ（INIT）は小さな穴の内部にあります。初期化スイッチを押すときは、精密ドライバーなど、先の細いもので押してください。

1. 本製品の電源をOFFにします。
2. 本体側面の初期化スイッチを押したまま、電源をONにします。電源がONになったあとも、初期化スイッチは押したままにします。
3. 約10秒後、本製品前面の、LANとWANを除くすべてのランプが点灯したあと、消灯するまで待ってからスイッチを離します。
   本製品が初期化されます。

ファームウェアをアップデートするには

本製品のファームウェアは、不定期にバージョンアップを行っています。
ここでは、ファームウェアのバージョンアップ方法について解説します。

本製品のファームウェアのバージョンを確認するには

設定ページを開くと、画面左側に表示されます。

MN アップデータ、および最新のファームウェアを入手しましょう

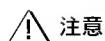
MN128-SOHO ホームページに定期的にアクセスして、最新のファームウェアの情報を入手してください。

MN128-SOHO ホームページ 株式会社エヌ・ティ・ティ エムイー：http://www.ntt-me.co.jp/mn128/

◎ 最新のファームウェアをダウンロードする必要があります。

◎ アップデートするには、「MN アップデータ」というソフトウェアが必要です。MN128-SOHO ホームページからダウンロードしてください。

ファームウェアをアップデートするには

MN アップデータを使用して、ファームウェアをアップデートします。
操作方法は、活用ガイド～初級編「本製品をバージョンアップする」（PDF ファイル）で解説しています。

⚠ 注意

無線 LAN の PC カードを使って無線で接続しているパソコンからは、本製品のファームウェアをアップデートすることはできません。

エラーコード一覧

メッセージ表示されたときや、[情報表示（接続／切断ログ)］画面にエラーが表示されているときは、下記を参照して対処してください。

MN128-SOHO ISDN 網エラー

- [網理由表示＃6 ：チャネル利用不可]
  → 相手先がISDN 回線を使用しているか確認してください。
- [網理由表示＃17 ：着ユーザビジー]
  → 相手先のISDN 回線のB チャネルが空いていません。しばらく待ってから、再発信してください。
- [網理由表示＃18 ：着ユーザレスポンスなし]
  → 相手先が応答しません。
  [接続／相手先登録］画面の［相手先電話番号］を確認してください。
  → 相手先の端末が正しく接続されているか確認してください。
- [網理由表示＃20 ：加入者不在]
  → しばらく待ってから、再発信してください。
  → 相手先が応答しません。
  接続／相手先登録］画面の［相手先電話番号］を確認してください。
- [網理由表示＃21 ：通信拒否]
  → 相手先に接続を拒否されました。
  相手先が着信を許可しているか確認してください。
- [網理由表示＃27 ：相手端末故障中]
  → 相手先に次のことを確認してください。
  ・端末の電源をON にしていますか？
  ・各機器を正しく接続していますか？
- [網理由表示＃28 ：無効番号フォーマット（不完全番号)]
  → [接続／相手先登録］画面の［相手先電話番号］を確認してください。
- [網理由表示＃34 ：利用可回線／チャネルなし]
  → ほかの端末によって使用されているため、こちら側のISDN 回線のB チャネルが空いていません。
  B チャネルが空いてから、再発信してください。
- [網理由表示＃41 ：一時的障害]
  → しばらく待ってから、再発信してください。496
- [網理由表示＃44 ：要求回線／チャネル利用不可]
  → 相手先のISDN 回線のB チャネルが空いていません。相手先のB チャネルが空いてから、再発信してください。
- [網理由表示＃88 ：端末属性不一致]
  → 電話機やファクシミリなどが応答しました。
  [接続／相手先登録］画面の［相手先電話番号］を確認してください。
  → 相手先に次のことを確認してください。
  ・各機器は正しく接続していますか？
  ・各機器にサブアドレスを正しく設定していますか？

MN128-SOHO PPP エラー

- [PPP エラー：認証プロトコル不一致]
  → [接続／相手先登録] 画面の [認証プロトコル]（[送信パスワード] の下の設定を変更して、再発信してください。
- [PPP エラー：認証失敗]
  → ID またはパスワードが間違っています。
  [接続／相手先登録] 画面の [送信ユーザID] [送信パスワード] に正しいID およびパスワードを設定して、再発信してください。
  → 暗号化の設定が間違っています。
  本製品同士で暗号化したデータをやり取りする場合は、双方で [接続／相手先登録] 画面の [暗号化] を「する」、[鍵配送鍵] に同じ文字列を設定して、再発信してください。
- [PPP エラー：接続要求再送タイムアウト]
  → 本製品を再起動して、再発信してください。
- [PPP エラー：認証再送タイムアウト]
  → 本製品を再起動して、再発信してください。
- [PPP エラー：プロトコル拒否]
  → 本製品を再起動して、再発信してください。
  → 相手先がIP 通信をサポートしていない場合があります。
  相手先の通信プロトコルを確認してください。
- [PPP エラー：コールバック要求失敗]
  → コールバックできません。
  [接続／相手先登録] 画面の [コールバック発信] で [なし] を選択してください。

設定ページのエラー

- [PPP エラー：割り当てIP アドレスなし]
  → リモートアクセスを許可する場合は、[ルータ設定（LAN)] 画面の [リモートIP アドレス1/2/3/4 にリモートアクセス用のIP アドレスを設定してください。
  → こちらから発信したときにこのメッセージが表示される場合は、次のことを確認してください。
  ・相手先はリモートアクセスを許可していますか？
  ・相手先を登録している [接続／相手先登録] 画面の [接続モード] で [端末型接続] を選択してください。
- [PPP エラー：LCP 接続要求再送タイムアウト]
  → [接続／相手先登録] 画面の [通信チャネル] を変更してください。
- [PPP エラー：LCP 接続失敗]
  → [接続／相手先登録] 画面の [通信チャネル] を変更してください。
- [PPP エラー：CBCP 不許可]
  → コールバックできません。
  [接続／相手先登録] 画面の [コールバック発信] で [なし] を選択してください。
- [PPP エラー：IPCP 接続要求再送タイムアウト]
  → [接続／相手先登録] 画面の [接続モード] を変更してください。
- [PPP エラー：IPCP 接続失敗]
  → [接続／相手先登録] 画面の [接続モード] を変更してください。

用語解説

ADSL
Asymmetric Digital Subscriber Lineの略で、加入者電話回線を用いて数100kbps～数Mbpsの速度のデジタル伝送を行う通信方式です。加入者宅から電話局へ向かう上りの伝送容量より、電話局から加入者宅へ向かう下りの伝送容量が大きく、既存の1本の加入者回線でデータ通信とアナログ通話を同時に伝送することなどができます。

ADSLモデム
ADSLを利用する場合に、サービス加入者側に設置するモデムです。

CATVインターネット
CATV（Cable Television）回線を使用したインターネット接続サービスです。同軸ケーブルを使った多チャンネル番組放送で利用されていない周波数帯域を利用し、数100kbps～10Mbps程度のインターネット接続環境を実現します。NTT-MEでは、佐野ケーブルテレビ株式会社と協力してインターネット接続サービスを提供しています。

CATVモデム
CATVインターネットサービスを利用する場合に、サービス加入者側に設置するモデムです。

DMZ （DeMilitarized Zone ）
LAN 側のネットワークとインターネットとの間に、ルータを介して設けられる区域のことです。
インターネットにWeb サーバなどを公開することによってLAN 型で接続している端末に、インターネットから不正な接続がされる可能性を減らすために、サーバをこの区域に設定します。

DNS（Domain Name System）
TCP/IPネットワークにおける名前解決サービスのことです。DNS（ドメイン・ネーム・システム）にしたがってドメインネームサーバにコンピュータ名やドメイン名を登録して、ドメインネームサービスを提供しています。ドメインネームサービスを利用すると、「192.168.0.1」などの分かりにくい数字ではなく、分かりやすいドメイン名やホスト名で目的のサイトを指定することができます。

DSU（Digital Service Unit）
デジタル回線に端末装置を接続するための装置です。ISDN回線を使う際に必要です。

FTTH（Fiber To The Home）
電話局から各家庭まで光ファイバーを引き、高速な通信環境を提供するサービスです。NTT東日本、NTT西日本によって提供されている「Bフレッツ」サービスもこれに含まれます。

IEEE 802.11b
IEEE（米国電気電子学会）によって規定された規格で、2.4GHz帯の無線で最大11Mbpsの伝送を行います。

IEEE 802.11g
IEEE（米国電気電子学会）によって規定された規格で、2.4GHz帯の無線で最大54Mbpsの伝送を行います。IEEE 802.11bの約5倍の伝送速度をサポートします。

INSネット64
NTTが1988年にサービスを開始した日本版ISDN方式の回線サービスの名称です。1契約回線でデータ用のBチャネル64kbpsが2本と、制御用のDチャネル16kbpsが1本提供されます。2本のBチャネルは同時に使用できるため、データ通信とアナログ通信（電話やファックスの利用）を同時に行うことができます。
インターネット接続などでは、64kbps（同期式）／38.4kbps（非同期式）の通信速度のデータ通信ができ、Bチャネルを2本束ねたMP通信では128kbpsでのデータ通信が可能です。

ISDN（Intergrated Service Digital Network）
「総合デジタル通信網」と呼ばれるサービス体系の総称で、デジタル化された情報を伝送する通信方式の国際規格です。電話、ファクシミリ、テレックス、データ通信、ビデオテックス網を統合化した、高速・多重・大容量デジタル通信網を提供します。日本では、NTTがINSネット64、INSネット1500というサービスを、KDDが国内および国際ISDNサービスを提供しています。

MP（PPP Multilink Protocol）
ISDN回線で高速通信を実現する方法の1つで、複数のチャネルを使用してPPP通信する方式のことです。INSネット64の2つのBチャネルを同時に接続すると、128kbpsの通信速度が可能になります。
MPでプロバイダに接続するためには、プロバイダ側がMPに対応している必要があります。

PPP（Point to Point Protocol）
遠隔地にある2点間でパケットを送受信するために設計されたWAN用のプロトコルで、インターネットに接続するための代表的なプロトコル。パケットにはプロトコルを示すフィールドがあるので、TCP/IPやIPX、AppleTalkなど、複数のプロトコルを同時にサポートできます。

PPPoE（PPP over Ethernet）
PPPフレームを直接Ethernet上にマッピングして転送するプロトコルです。IETF RFC2516で規定されています。

PPPoEマルチセッション
1回線上で、同時に複数のPPPoE接続を可能にする機能です。

SSID（Service Set Identifier）
端末が接続先の無線アクセスポイントを指定するIDです。同じSSIDを持つ機器同士のみ接続できます。

Super G
米アセロス・コミュニケーションズ社の開発した、無線LANのスループットを向上させる技術です。同社の独自技術である「バーストパケット転送」「動的な転送最適化」「データ圧縮機能」を組み合わせることで、実効スループットを向上しています。

VPN（Virtual Private Network）
インターネットを利用して論理的なグループを構成し、そのグループ間でセキュリティを保つ仕組みを設けたネットワークのことです。VPNによって、特定のユーザ間を専用回線のように結ぶことができます。

WEP（Wired Equivalent Privacy）
無線LANの国際規格のIEEE802.11で決められている暗号化技術です。アクセスポイントと端末の両方で、同じ文字列からなる「キー」を設定し、キーを元にデータの暗号化や復号化が行われます。

WPA（Wi-Fi Protected Access）-PSK（Pre Shared Key）
WPAとは、無線LANの業界団体によって発表された、無線LANの暗号化方式です。認証機能を持ち、暗号鍵を一定時間毎に自動更新できるなど、従来のWEPよりもセキュリティが向上しています。WPAの認証にPSKを使用する方式が、WPA-PSKと呼ばれます。

WWW（World Wide Web）
インターネット上に分散しているファイルやサービスなどの、コンピュータに存在する情報を参照・検索できる仕組みのことです。この仕組みを利用すると、世界中に点在しているテキスト、音、画像などの情報を共有することができます。

Webブラウザソフト
ホームページを閲覧したり、WWWサーバを検索したりするためのソフトウェアです。マイクロソフト社の「Internet Explorer」、ネットスケープ・コミュニケーションズ社の「Netscape Navigator」は、代表的な製品です。

端末型ダイヤルアップ接続
1台のパソコンでインターネットを利用するための契約です。この契約をしたときはプロバイダに接続したときに、そのパソコンのIPアドレスが割り当てられます。

光回線終端装置
光ファイバーによるインターネットを利用する場合に、サービス加入者側に設置する装置です。

ファームウェア
ハードウェアを動作させるプログラムです。MN128-SOHOホームページからダウンロードできます。

ブロードバンド
xDSL、CATV、光ファイバーなど、帯域幅が広く転送能力が高い通信方式の総称です。

リモートアクセス
公衆電話回線などを使用して、遠隔地のパソコンからLANなどのネットワークに接続することです。データ共有、プリンタ共有などLANの資源を使用することができます。

お問い合わせ先

■メンテナンスサービスについて

- 本製品に含まれるソフトウェアが保存されている媒体に欠陥があった場合、お買い上げの販売代理店または小売店に返却してください。無償にて新品と交換いたします。なお、欠陥品送付にともなう送料は、送り主負担とさせていただきます。
- 本製品に含まれるハードウェアが購入後、１年間に通常のご使用において故障した場合、これを保証します。故障品に保証書を添えて、お買い上げの販売代理店または小売店に返却してください。無償にて修理いたします。なお、修理品送付にともなう送料は、送り主負担とさせていただきます。ただし、保証期間内であっても、事故、誤用、乱用、操作ミスによって破損した場合、有償となることがございます。

■お問い合わせ先

本製品について技術的なご質問、または製品のアップグレードに関するご質問は、お買い上げの販売代理店、小売店、またはMNテクニカルセンタまでお問い合わせください。

MNテクニカルセンタ

TEL : 0570－055－128（NTT 一般電話、携帯電話用）
03－5550－8420（PHS、およびNTT以外の電話用）
FAX : 0570－056－128

※9:40～17:50（土・日・休日・年末年始は除く）
※FAXは24時間受け付けております。

■ホームページのご案内

株式会社エヌ・ティ・ティ エムイーのホームページで、製品のサポート情報、活用ガイド、最新のファームウェア、アプリケーションなどを提供しておりますので、ご活用ください。

MN128-SOHO ホームページ

◎ 株式会社エヌ・ティ・ティ エムイー「MN128 Information」
http://www.ntt-me.co.jp/mn128/

索引

仕様

ハードウェア仕様

◎WANインタフェース部

適用回線	ADSL、CATV、FTTH（光ファイバー）※
ポート数	1ポート
コネクタ形状	8ピンモジュラージャック（RJ45）
物理インタフェース	IEEE802.3(10Base-T) IEEE802.3u(100Base-TX)
通信速度	10/100Mbps （自動設定）
全二重／半二重	全二重／半二重（自動判別）
MDI/MDI-X（ストレート／クロスケーブル）	自動判別

※適用回線に合わせて、ADSLモデム、CATVモデム、光回線終端装置等が必要

◎LANインタフェース部

ポート数	4（スイッチングハブ）
コネクタ形状	8ピンモジュラージャック（RJ45）
物理インタフェース	IEEE802.3（10BASE-T） IEEE802.3u(100Base-TX)
通信速度	10/100Mbps （自動設定）
全二重／半二重	全二重／半二重（自動判別）
MDI/MDI-X（ストレート／クロスケーブル）	自動判別

◎ISDNインタフェース部

適用回線	INS ネット64，高速デジタル専用線(64kbit/s，128kbit/s)
適用サービス	Bチャネル回線交換、Dチャネルパケット交換
インタフェース形態	P-MP常時
Bチャネル通信速度	非同期32(PIAFS)/64(PIAFS)Kbps 同期64/128Kbps

◎ISDNインタフェース（U点）部

ポート数	1（スイッチで切離し可能）
コネクタ形状	6ピンモジュラージャック（RJ11）
伝送方式	2線 時分割方式 JT-G.961準拠
極性反転	自動判別
DSU折り返し機能	あり

◎ISDNインタフェース（S/T点）部

ポート数	1
コネクタ形状	8ピンモジュラージャック（RJ45）
伝送方式	4線 AMI符号 ITU-T I.430準拠
給電	あり（DSU使用時）
終端抵抗	内蔵、スイッチによって切り替え可能

◎シリアルインタフェース部

ポート数	1
機械的仕様	D-SUB-9 コネクタ（D-sub9pin メス-メス ストレート全結線ケーブル使用）
電気的仕様	RS-232C準拠
接続制御手順	Hayes互換ATコマンド X.28 （Dチャネルパケット時）
シリアル通信速度	9.6/19.2/38.4/57.6/115.2kbps

◎アナログインタフェース部

ポート数	2
コネクタ形状	6ピンモジュラージャック（RJ11）
電気的仕様	2線式アナログインタフェース
給電電圧	約-48V（無負荷時）
発信手順	押しボタンダイヤル（PB）
ブランチ接続	動作保証外

◎PCカードスロット部

スロット数	1
仕様	PC Card Standard release 8.0、PCMCIA Standard, release 2.1（PCMCIA TYPE II, CardBus TypeII）
対応カード	•無線LANカード NTT-ME：MN SS-LAN Card 11 HQ-R、MN SS-LAN Card 11 HQ、MN-WLC54g、MN-WLC54g-HQ •モデムカード OMRON：VIAGGIO ME5614CG2 I·O DATA：PCML-560EL •PHSカード NTT DoCoMo：P-in Free1P, P-in Free1S, P-in m@ster, P-in memory, P-in comp@ct (NTT DoCoMo) DDI POCKET：AH-N401C (NEC), AH-H403C (HONDA ELECTRON), CH-S202C/TD (SII) •FOMA PCカード型端末 FOMA P2401, FOMA F2402, FOMA P2402(NTT DoCoMo)

ユーザインタフェース

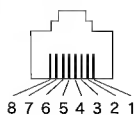
状態表示LED	13個 (POWER/MAIL/DATA/B1/B2/TEL1/TEL2/WAN/PPPoE/LAN1/LAN2/LAN3/LAN4)
スイッチ	終端抵抗切替スイッチ(TERM ON/OFF) DSUスイッチ(DSU ON/OFF) 初期化スイッチ(INIT ON/OFF) 電源スイッチ(POWER ON/OFF)

その他

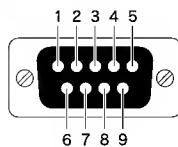
使用電源	AC100V±10%(50/60Hz) アース端子あり
消費電力	15W以下
停電バックアップ	単3電池6本、TELポート1のみ使用可、待ち受け時間3時間、連続通話時間2時間(周囲気温25℃の場合)※
環境条件	温度10～50℃、湿度20～70% (ただし結露しないこと)
電波障害防止	VCCI クラスB
外形寸法	60(W)×192(D)×250(H) mm
重量	約1kg(乾電池を除く)

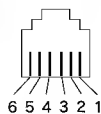
※ 停電時の動作時間は、電池の使用状況、種類、周辺温度、使用環境などによって異なります。

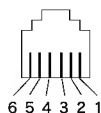
コネクタ仕様

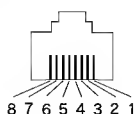
◎WAN/LAN

1	送信(+)	送信(−)	受信(+)	受信(−)
2	送信(−)	送信(+)	受信(−)	受信(+)
3	受信(+)	受信(−)	送信(+)	送信(−)
4	未使用			
5	未使用			
6	受信(−)	受信(+)	送信(−)	送信(+)
7	未使用			
8	未使用			

※送受、正負極は自動判別。

◎シリアル(シリアルポート)

1 DCD　2 TxD
3 RxD　4 DSR
5 GND　6 DTR
7 CTS　8 RTS
9 RI

◎TEL1/2(TELポート)

1 未使用　2 未使用
3 L2　4 L1
5 未使用　6 未使用

◎ISDN U

1 未使用　2 未使用
3 L2(NOR時)、L1(REV時)
4 L1(NOR時)、L2(REV時)
5 未使用　6 未使用

◎ISDN S/T

1 未使用　2 未使用
3 送信(TA)　4 受信(RA)
5 受信(RB)　6 送信(TB)
7 未使用　8 未使用

機能仕様

◎ルータ部(LANポート)

WAN インタフェースのみ
- PPPoE クライアント機能
- PPPoE マルチセッション(最大4セッション同時接続)
- PPPoE セッションキープアライブ
- MTU値調整(自動調整/手動調整)
- MSS値調整(手動調整)
- DHCP クライアント

PPP接続(自動/手動)

PPP切断
PPP認証（自動/PAP/CHAP/MS-CHAPv2/なし）
PPP 自動接続制限（最大接続時間、接続回数制限、料金制限）
IP Unnumbered（複数固定グローバルIP アドレス対応）
DHCPサーバ搭載（253件）
DHCPスタティック機能
ルーティング対象プロトコル：IP
ルーティングプロトコル：RIP
ソースルーティング機能
AutoDNS™（DNS代理応答）
簡易DNSサーバ機能
VPNパススルー(PPTP, L2TP, IPsec)
DMZホスト(静的NAT 以外のすべてのアクセスを特定ホストに転送)
UPnP(Windows / MSN Messenger対応)：最大4ユーザ
UPnP NAT 情報自動消去
メール着信通知
メール転送
時刻修正機能
ISDN固有
- スケジュール（テレホーダイ対応）
- MP対応
- BACP対応
- リソースBOD機能
- スループットBOD機能
- PIAFS対応：32kbps / 64kbps 固定(ギャランティー方式、PIAFS Ver.2.0準拠) / 64kbps 可変(ベストエフォート方式、PIAFS Ver.2.1準拠)
- リモートアクセスサーバ
- コールバック機能：無課金（独自方式）、Windows互換(CBCP)、強制コールバック
- グローバル／サブアドレス着信
- 専用線（OCN エコノミー）
- 相手先識別着信（発番号による識別着信）

セキュリティ
- NAT(アドレス変換) 静的32件／動的／4096セッション
- NAPT(IPマスカレード) 静的32件／動的(NATと共用)／4096セッション
- IPパケットフィルタ（静的64件）
- VPN （PPTPサーバ／クライアント）
- PPP暗号化（MPPE暗号化、独自暗号化）
- ステートフル・パケット・インスペクション
- ステルスモード（WAN からのping に応答しない、ICMPエラーを返さない、TCPリセットを返さない）
- 管理者設定（設定ページにアクセスするための管理者）

※ルータ機能を使用するには、ご利用のパソコンにLANボード（カード）または無線LANカードが必要です。別途ご用意ください。

◎アナログ部（TELポート）

時間差優先着信
発信者番号通知
音量調節
通信中着信通知（リソースBOD、ただしルータ機能で通信中のみ）
内線通話／転送
通話中発信
i・ナンバー対応
Lモード対応
モデムダイヤルイン
サイレントFAX
INSマジックボックス
INSナンバー・ディスプレイ
INSキャッチホン・ディスプレイ
INSネーム・ディスプレイ
INSボイスワープ・セレクト
INSなりわけサービス
ダイヤルイン
INS 迷惑電話おことわりサービス
フレックスホン（キャッチホン、三者通話、通信中転送、着信転送）
グローバル着信
サブアドレス識別
サブアドレスグローバル着信
擬似着信転送（「転送中」アナウンスなし）
擬似キャッチホン
擬似三者通話（通話中発信）
停電時バックアップ（アナログポート1 のみ）
ダイヤル桁間タイマー
機能ボタン設定
発信時のポート接続機器の設定

◎PCカード部

無線LAN
- SSID
- 無線ステルス
- WEP(64/128/152bit)およびWPA-PSKあり（ただし無線カードの仕様による）
- 無線端末限定（MACアドレスによる）
- Super G

※無線LANを使用するには、対応無線LANカードが必要です。別途ご用意ください。

モデム/PHS/FOMAのPCカードに対応

※対応しているモデム/PHS/FOMAのPCカードのみ使用できます。対応PCカードは別途ご用意ください。

◎TA部（RS-232Cシリアルポート）

同期PPP/MP機能
PIAFS：32kbps / 64kbps 固定(ギャランティー方式、PIAFS Ver.2.0準拠) / 64kbps 可変(ベストエフォート方式、PIAFS Ver.2.1準拠)
Dチャネルパケット通信機能
フロー制御(ハードウェアフロー制御のみ)

製品お問い合わせ用紙

トラブルなどが発生した場合は、このページをコピーして必要事項をご記入の上MNテクニカルセンタ〈P.162〉までFAXしてください。

ユーザ情報

ふりがな 氏名	電話番号 FAX番号

連絡先
〒

製品情報

製品名　MN128-SOHO IB3	ファームウェアバージョン　Ver.
購入日　年　月　日	製造番号

使用パソコン情報

メーカ名 [ ]	機種名 [ ]

OS [Windows (98 SE / Me / XP / 2000) ・ MacOS]　OSバージョン [ ]

本製品を接続しているポート [LAN (内蔵 / 増設) ・ シリアル ・ PCカードスロット]

使用ソフトウェア情報

使用ソフト名 [ ]	使用ソフトバージョン [ ]

使用INFファイル名（使用している場合）[ ]

接続情報

接続先 [NTT東日本・NTT西日本 { Bフレッツ (タイプ)、フレッツ・ADSL }・Yahoo! BB・その他 ( )・アクセスサーバ・ルータ・他 ( )]

回線速度 [同期 (Kbps)・ PIAFS (Kbps)・ 専用線 (Kbps)・ FTTH ・ ADSL ・ CATV]

PCカードスロット情報

PCカード [なし ・ あり]　メーカ名 [ ]　機種名 [ ]

ネットワーク情報 [Ether使用 ・ 不使用]

IPアドレス [ ]	サブネットマスク [ ]
ゲートウェイアドレス [ ]	デフォルトルータアドレス [ ]

プリンタ [なし ・ あり]　メーカ名 [ ]　機種名 [ ]

他ルータ [なし ・ あり]　メーカ名 [ ]　機種名 [ ]

ISDN回線契約情報

ISDN回線種別 [INSネット64 ・ 専用線 ( )]	フレッツ・ISDN [なし ・ あり]

フレックスホン [キャッチホン (コールウェイティング) ・ 三者通話 ・ 通信中転送 ・ 着信転送]

ダイヤルインサービス [なし ・ あり]	グローバル着信 [あり ・ なし] ※ダイヤルインサービスを契約している場合のみ
i・ナンバー [なし ・ あり]	マジックボックス [なし ・ あり]

Dチャネルパケット通信接続方法 [なし ・ あり (VC / PVC)]

TELポート情報

TEL1 [なし ・ あり]　メーカ名 [ ]　機種名 [ ]

TEL2 [なし ・ あり]　メーカ名 [ ]　機種名 [ ]

症状

※エラーが出ている場合はエラー番号、メッセージも記入してください。
※LANポートからご使用の方は、設定ページの内容を別途添付してください。
※RS-232Cシリアルポートからご使用の方は、AT¥S、AT%R、AT@Cコマンドで表示される内容を別途添付してください。
※接続機器構成図を別途添付してください。